

GA-Z97X-SOC Force

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-Z97XSOF-1001R



Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer,

G.B.T. Technology Trading GmbH

Address: Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

Declare that the product

Product Type: Motherboard

Product Name: GA-Z97X-SOC Force

conforms with the essential requirements of the following directives:

☒ 2004/108/EC EMC Directive:

☒ Conduction & Radiated Emissions:	EN 55022:2010
☒ Immunity:	EN 55024:2010
☒ Power-line harmonics:	EN 61000-3-2:2006+A2:2009
☒ Power-line flicker:	EN 61000-3-3:2008

☒ 2006/95/EC LVD Directive

☒ Safety:	EN60950-1:2006+A12:2011
---	-------------------------

☒ 2011/65/EU RoHS Directive

☒ Restriction of use of certain substances in electronic equipment:	This product does not contain any of the restricted substances listed in Annex II, in concentrations and applications banned by the directive.
---	--

☒ CE marking



Signature: Timmy Huang

(Stamp)

Date: Mar. 31, 2014

Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name:G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (626) 854-9338/ (626) 854-9326

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-Z97X-SOC Force

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Mar. 31, 2014

著作権

© 2014 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。

本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

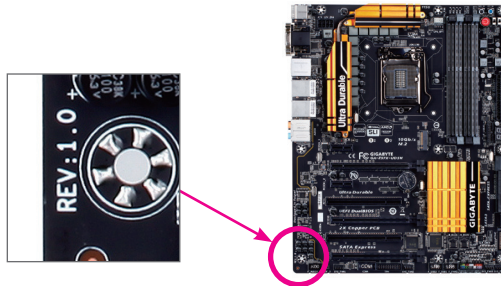
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<http://www.gigabyte.jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

例：



目次

ボックスの内容.....	6
GA-Z97X-SOC Force マザーボードのレイアウト.....	7
GA-Z97X-SOC Force マザーボードブロック図.....	8
 第 1 章 ハードウェアの取り付け	9
1-1 取り付け手順.....	9
1-2 製品の仕様.....	10
1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け	14
1-3-1 CPU を取り付ける	14
1-3-2 CPU クーラーを取り付ける	16
1-4 メモリの取り付け	17
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定.....	17
1-4-2 メモリの取り付け.....	18
1-5 拡張カードを取り付ける.....	19
1-6 AMD CrossFire™/NVIDIA® SLI™構成のセットアップ	20
1-7 背面パネルのコネクター.....	22
1-8 オンボードボタン、スイッチ、およびLED	25
1-9 内部コネクター	29
 第 2 章 BIOS セットアップ	39
2-1 起動画面.....	40
2-2 メインメニュー	41
2-3 M.I.T.	44
2-4 System Information (システムの情報)	56
2-5 BIOS Features (BIOS の機能)	57
2-6 Peripherals (周辺機器).....	61
2-7 Power Management (電力管理).....	64
2-8 Save & Exit (保存して終了)	66
 第 3 章 SATA ハードドライブの設定.....	67
3-1 SATA コントローラーを構成する.....	67
3-2 SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムの インストール.....	79

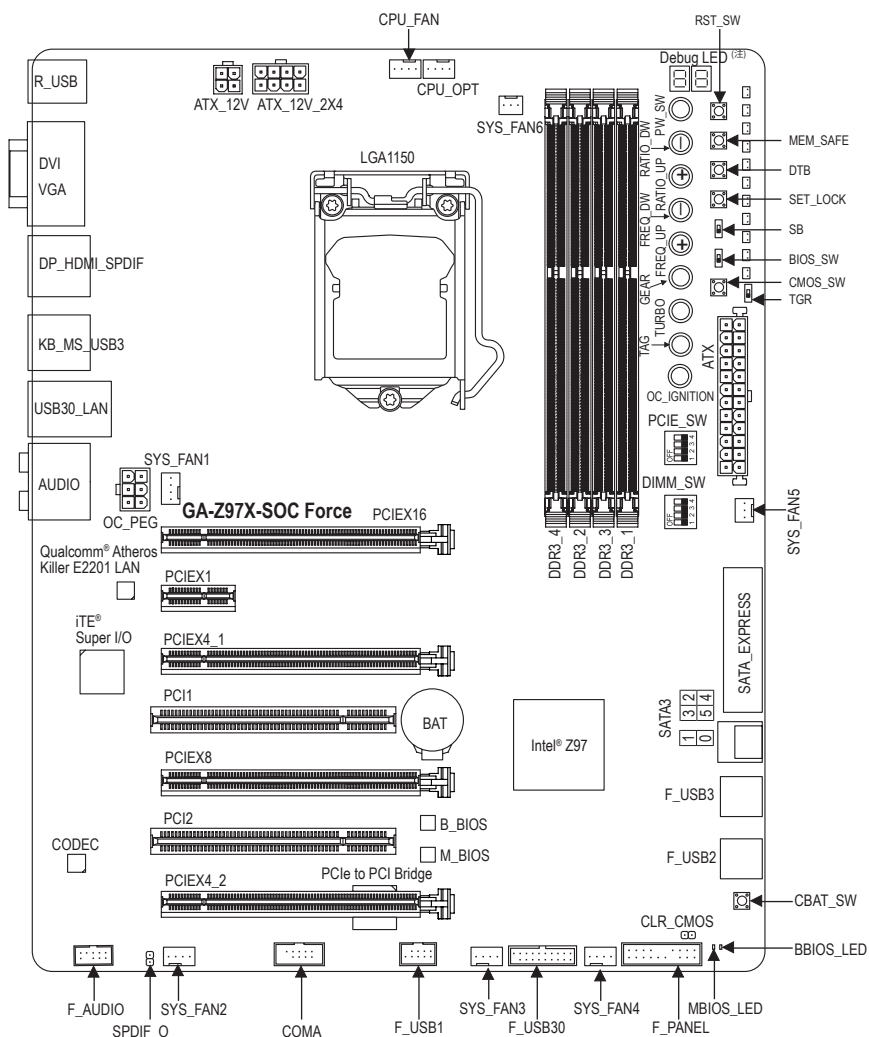
第 4 章	ドライバのインストール	83
4-1	Chipset Drivers (チップセットドライバ).....	83
4-2	Application Software (アプリケーションソフトウェア)	84
4-3	Information (情報).....	84
第 5 章	独自機能.....	85
5-1	BIOS 更新ユーティリティ.....	85
5-1-1	Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する.....	85
5-1-2	@BIOS ユーティリティで BIOS を更新する.....	88
5-2	APP Center	89
5-2-1	EasyTune.....	90
5-2-2	System Information Viewer.....	91
5-2-3	EZ Setup.....	92
5-2-4	Fast Boot	97
5-2-5	Smart TimeLock.....	98
5-2-6	Smart Recovery 2.....	99
5-2-7	USB Blocker.....	101
5-2-8	Smart Switch	102
第 6 章	付録	103
6-1	Qualcomm® Atheros Killer Network Manager.....	103
6-2	オーディオ入力および出力を設定.....	104
6-2-1	2/4/5.1/7.1 チャネルオーディオを設定する.....	104
6-2-2	S/PDIF アウトを構成する	106
6-2-3	マイク録音を構成する.....	107
6-2-4	Sound Recorder を使用する	109
6-3	トラブルシューティング	110
6-3-1	良くある質問	110
6-3-2	トラブルシューティング手順	111
6-4	LED コードのデバッグ	113
	規制声明.....	117
	連絡先	123

ボックスの内容

- ☑ GA-Z97X-SOC Force マザーボード
- ☑ マザーボードドライバディスク
- ☑ ユーザーズマニュアル
- ☑ クイックインストールガイド
- ☑ SATAケーブル (x4)
- ☑ I/O シールド
- ☑ 2-way SLIブリッジコネクター
- ☑ 2-way CrossFireブリッジコネクター (x1)
- ☑ 電圧測定ケーブル (x8)
- ☑ OCブレース x1

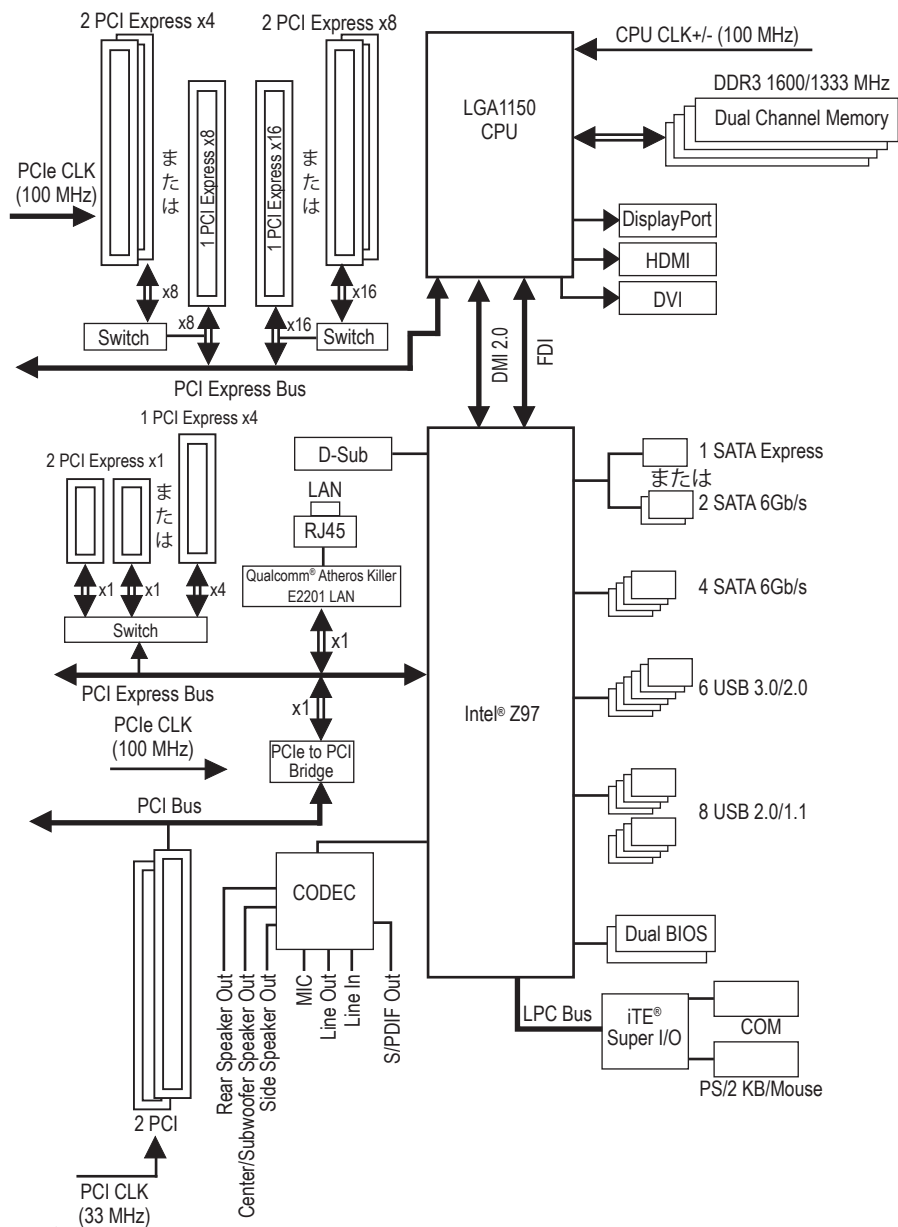
上記、ボックスの内容は参照用となります。実際の同梱物はお求めいただいた製品パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。

GA-Z97X-SOC Force マザーボードのレイアウト



(注) デバッグコード情報については、第6章を参照してください。

GA-Z97X-SOC Force マザーボードブロック図



製品の情報/制限の詳細は、「1-2 製品の仕様」を参照してください。

第1章 ハードウェアの取り付け

1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置か、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高湿環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。

1-2 製品の仕様

 CPU	• LGA1150 Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium®プロセッサ/Intel® Celeron®プロセッサのサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) • L3 キャッシュはCPUにより異なります
 チップセット	• Intel® Z97 Express チップセット
 メモリ	• 最大32 GBのシステムメモリをサポートするDDR3 DIMM ソケット (x4) * Windows 32 ビットオペレーティングシステムの制限のため、4 GB 以上の物理メモリを取り付けた場合、表示される実際のメモリサイズは取り付けられた物理メモリのサイズより小さくなります。 • デュアルチャンネルメモリ対応 • DDR3 1600/1333 MHz メモリモジュールのサポート • 非 ECC メモリモジュールのサポート • XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
 オンボードグラフィックス	• 統合グラフィックスプロセッサ： - D-Subポート(x1)、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。 - DVI-Dポート(x1)、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。 * DVI-Dポートは、変換アダプタによるD-Sub接続をサポートしていません。 - HDMIポート(x1)、4096x2160@24Hz または 2560x1600@60Hz の最大解像度をサポートします。 * HDMIバージョン1.4aをサポート。 - DisplayPort(x1)、4096x2160@24Hz または 3840x2160@60Hz の最大解像度をサポートします。 * DisplayPortバージョン1.2をサポート。 - 最大3画面の同時表示をサポート - 最大1 GBまでのメモリをシェア可能
 オーディオ	• Realtek® ALC1150 コーデック • ハイディフィニションオーディオ • 2/4/5.1/7.1 チャンネル • S/PDIF アウトのサポート
 LAN	• Qualcomm® Atheros Killer E2201 チップ (10/100/1000 Mbit)
 拡張スロット	• PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCIEX16) * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Express グラフィックスカードを 1 つしか取り付けられない場合、PCIEX16 スロットに必ず取り付けてください。 • PCI Express x16 スロット (x1)、x8 で動作 (PCIEX8) * PCIEX8 スロットは、PCIEX16 スロットとバンド幅を共有します。PCIEX8 スロットが使用されているとき、PCIEX16 スロットは最大 x8 モードで作動します。 • PCI Express x16 スロット (x2)、x4 で実行 (PCIEX4_1、PCIEX4_2)

	拡張スロット	* PCIEX4_1スロットは、PCIEX8とPCIEX16スロットとバンド幅を共有します。PCIEX4_1スロットが作動している場合、PCIEX16スロットはx8モードまでで動作し、PCIEX8はx4モードまでで動作します。 * x8 またはそれ以上のカードを PCIEX4_1 スロットに取り付ける場合は、BIOS 設定の PCIe Slot Configuration (CPU)を x4 に設定していることを確認してください。(詳細については、第2章「BIOS Setup」、 「Peripherals」を参照してください。) * PCIEX4_2スロットは、PCIEX1スロットとバンド幅を共有します。PCIEX1スロットは、PCIe(x4)拡張カードがインストールされている場合は使用できなくなります。 (PCIEX16、PCIEX8 および PCIEX4_1 スロットは PCI Express 3.0 規格に準拠しています。) - PCI Express x1 スロット (x1) (PCIEX4_2 と PCIEX1 スロットは PCI Express 2.0 規格に準拠しています。) - PCI スロット (x2)
	マルチグラフィックステクノロジー	◆ 4-Way/3-Way/2-Way AMD CrossFire™/2-Way NVIDIA® SLI™ テクノロジーのサポート
	ストレージインターフェイス	◆ チップセット： - SATA Express コネクタ (x1) - SATA 6Gb/s コネクタ (x6) - SATA RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート (SATA Express と SATA3 4/5 のコネクタ、同時使用はできません。)
	USB	◆ チップセット： - USB 3.0/2.0 ポート (x6) (背面パネルに 4 つのポート、内部 USB ヘッダーを通して 2 ポートが使用可能) - USB 2.0/1.1 ポート (x8)((フロントパネル用 2 ポート、背面パネルに 4 ポート、内部 USB ヘッダーを通して 2 ポートが使用可能)
	内部コネクタ	◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ OC PEG 電源コネクタ (x1) ◆ SATA Express コネクタ (x1) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x6) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ 水冷ファンヘッダ (CPU_OPT) (x1) ◆ システムファンヘッダ (x6) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 3.0/2.0 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x2) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ CMOS クリアジャンパ (x1) ◆ 電源ボタン (x1) ◆ リセットボタン (x1) ◆ クリア CMOS ボタン (x1) ◆ ギアボタン (x1)

	内部コネクター	◆ OC ターボボタン (x1) ◆ OC タグボタン (x1) ◆ OC トリガースイッチ (x1) ◆ CPU BCLK ダウンボタン (x1) ◆ CPU BCLK アップボタン (x1) ◆ CPU 倍率ダウンボタン (x1) ◆ CPU 倍率アップボタン (x1) ◆ メモリセーフボタン (x1) ◆ 設定ロックボタン (x1) ◆ BIOS ダイレクトボタン (x1) ◆ OC DIMM スイッチ (x1) ◆ OC PCIe スイッチ (x1) ◆ OC イグニッションボタン (x1) ◆ バッテリークリアボタン (x1) ◆ BIOS スイッチ (x2) ◆ オンボード電圧測定モジュール (x1)
	背面パネルの コネクター	◆ USB 2.0/1.1ポート (x4) ◆ USB 3.0/2.0ポート (x4) ◆ 光学 S/PDIF アウトコネクター (x1) ◆ D-Subポート (x1) ◆ DVI-Dポート (x1) ◆ HDMIポート (x1) ◆ DisplayPort (x1) ◆ PS/2 キーボード/マウスポート (x1) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x6) (センター/サブウーファースピーカーアウト、リアスピーカーアウト、サイドスピーカーアウト、ラインイン、ラインアウト、マイクイン)
	I/O コント ローラー	◆ iTE I/O コントローラーチップ
	ハードウェア モニタ	◆ システム電圧の検出 ◆ CPU/システム/チップセット温度検出 ◆ CPU/CPU OPT/システムファン速度検出 ◆ CPU/システム過熱警告 ◆ CPU/CPU OPT/システムファンの異常警告 ◆ CPU/CPU OPT/システムファン速度制御 * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
	BIOS	◆ 128 Mbit フラッシュ (x2) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ DualBIOS™ のサポート ◆ PnP 1.0a, DMI 2.7, SM BIOS 2.7, ACPI 2.0
	独自機能	◆ APP Center のサポート * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - EasyTune

	独自機能	- EZ Setup - Fast Boot - ON/OFF Charge - Smart TimeLock - Smart Recovery 2 - System Information Viewer - USB Blocker ◆ Q-Flash のサポート ◆ Smart Switch のサポート ◆ Xpress Install のサポート
	バンドルされたソフトウェア	◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Intel® Rapid Start Technology ◆ Intel® Smart Connect Technology ◆ Intel® Smart Response Technology
	オペレーティングシステム	◆ Windows 8.1/8/7 のサポート
	フォームファクタ	◆ ATXフォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。

* GIGABYTEのWebサイトにある**Support & Downloads/Utility**ページにアクセスし、「独自機能」と「バンドルされたソフトウェア」の欄にリストされたソフトウェアがサポートするオペレーティングシステムをご確認ください。

1-3 CPU および CPU クーラーの取り付け

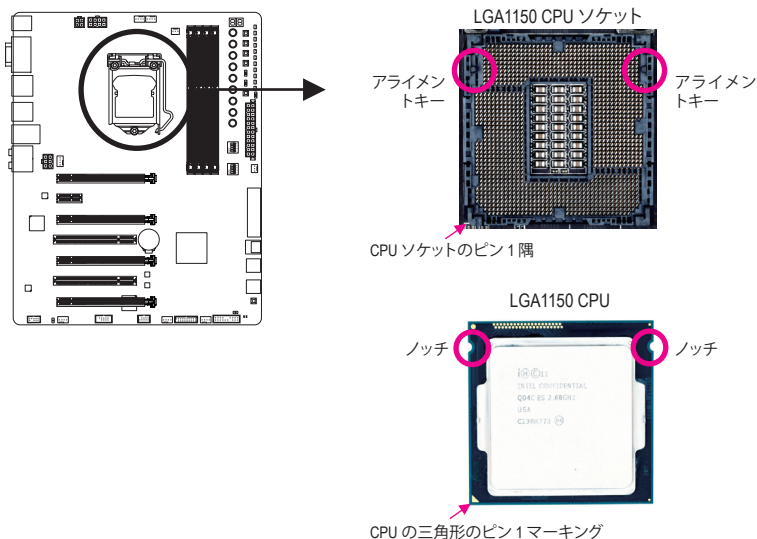


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。
(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1 CPU を取り付ける

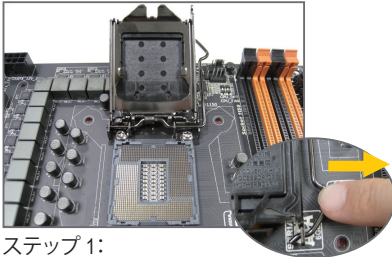
A. マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



B. 以下のステップに従って、CPUをマザーボードのCPUソケットに正しく取り付けてください。



- CPUを取り付ける前に、CPUの損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- ソケットピンを保護するために、CPUがCPUソケットに挿入されている場合を除き保護プラスチックカバーを取り外さないでください。



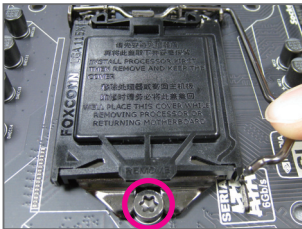
ステップ 1:

CPUソケットレバーハンドルをそっと押しながら、指でソケットから外します。CPUソケットレバーを完全に持ち上げると、金属製ロードプレートも持ち上がります。



ステップ 2:

CPUを親指と人差し指で抑えます。CPUピン1のマーキング(三角形)をCPUソケットのピン1隅に合わせ(または、CPUノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPUを所定の位置にそっと差し込みます。



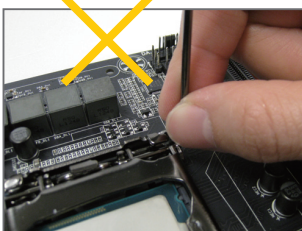
ステップ 3:

CPUが適切に挿入されたら、ロードプレートを慎重に戻します。ロードプレートを交換しているとき、ロードプレートのフロントエンドが肩付きねじの下にあることを確認します。続いてCPUのソケットレバーを押します。レバーをかみ合っている間に、保護プラスチックカバーがロードプレートから外れます。カバーを取り外します。カバーを適切に保管し、CPUが取り付けられていないときは常にCPUに元通りに付けてください。



ステップ 4:

最後に、保持タブの下でレバーを固定しCPUの取り付けを完了します。



注:

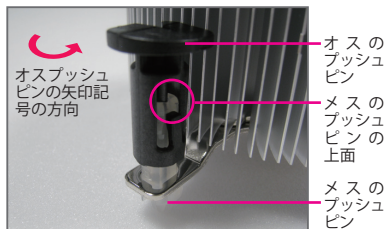
レバーの根元部分ではなく、ハンドルでCPUソケットレバーを支えます。

1-3-2 CPUクーラーを取り付ける

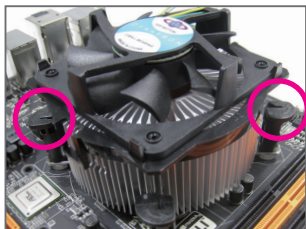
以下のステップに従って、CPUクーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。



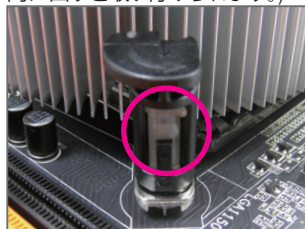
ステップ 1:
取り付けた CPU の表面に熱伝導グリスを
均等に薄く塗ります。



ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュ
ピンの矢印記号  の方向に注意してく
ださい。(矢印の方向に沿ってプッシュピ
ンを回すとクーラーが取り外され、逆の方
向に回すと取り付けられます。)



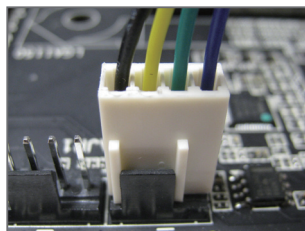
ステップ 3:
クーラーをCPUの上に配置し、マザーボー
ドのピン穴を通して 4つのプッシュピンを
揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し
下げてください。



ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げると、
「クリック音」が聞こえます。オスとメスの
プッシュピンがしっかり結合していること
を確認してください。
(クーラーを取り付ける方法について
は、CPUクーラーの取り付けマニュアルを
参照してください。)



ステップ 5:
取り付け後、マザーボードの背面をチェッ
クします。プッシュピンを上の方のように
差し込むと、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPUクーラーの電源コネクタ
ーをマザーボードの CPU ファンヘッダ
(CPU_FAN) に取り付けてください。



CPUクーラーとCPUの間の熱伝導グリス/テープはCPUにしっかり接着されているため、CPUクーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPUクーラーを不適切に取り外すと、CPUが損傷する恐れがあります。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えぬようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

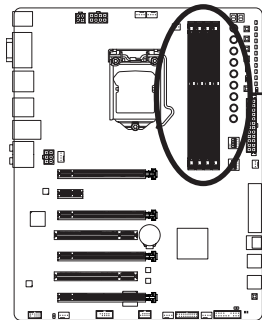
1-4-1 デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのDDR3メモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOSはメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に拡げます。

4つのDDR3メモリソケットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリソケットがあります：

▶ チャンネルA:DDR3_2、DDR3_4

▶ チャンネルB:DDR3_1、DDR3_3



▶ デュアルチャンネルメモリ構成表

	DDR3_4	DDR3_2	DDR3_3	DDR3_1
2つのモジュール	--	DS/SS	--	DS/SS
	DS/SS	--	DS/SS	--
4つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

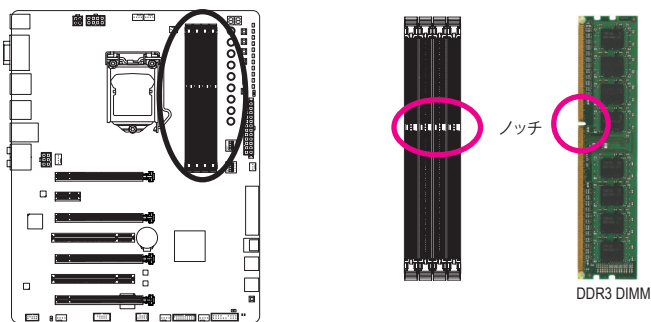
(SS=片面、DS=両面、「--」=メモリなし)

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

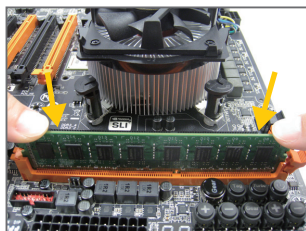
- DDR3メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
- 2または4枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にした場合、最適なパフォーマンスを発揮するためには同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用し、同じ色のDDR3ソケットに取り付けるようにお勧めします。最適なパフォーマンスを発揮するために、2枚のメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているときは、DDR3_1とDDR3_2ソケットにそれらのモジュールを取り付けることをお勧めします。

1-4-2 メモリの取り付け

 メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR3 と DDR2 DIMM は、互換性がないのでご注意ください。このマザーボードにDDR3 DIMM を取り付けられていることを確認してください。

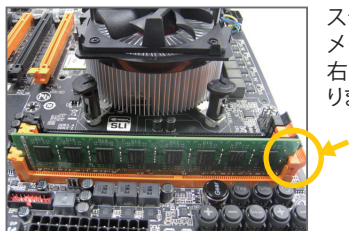


DDR3 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ 1:

メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。



ステップ 2:

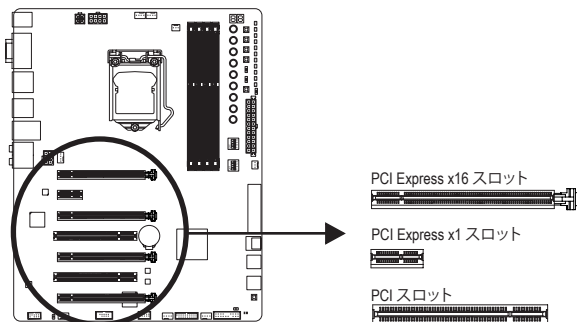
メモリモジュールがしっかり差し込まれると、ソケットの右端のクリップがカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



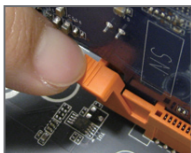
以下のステップに従って、拡張カードを拡張スロットに正しく取り付けてください。

1. カードをサポートする拡張スロットを探します。PCケース背面パネルから、金属製スロットカバーを取り外します。
2. カードをスロットに合わせ、スロットに完全にはまりこむまでカードを押し下げます。
3. カードの金属接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
4. カードの金属ブラケットをねじでPCケース背面パネルに固定します。
5. 拡張カードをすべて取り付けたら、PCケースカバーを元に戻します。
6. コンピュータの電源をオンにします。必要に応じて、BIOSセットアップに移動し拡張カードに必要なBIOS変更を行います。
7. 拡張カードに付属するドライバをオペレーティングシステムにインストールします。

例えば：PCI Expressグラフィックスカードの取り付けと取り外し：



- グラフィックスカードを取り付ける：
カードの上端がPCI Expressスロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。カードがスロットにしっかり装着され、ロックされていることを確認します。



- カードを取り外す：
スロットのレバーをそっと押し返し、カードをスロットからまっすぐ上に持ち上げます。

1-6 AMD CrossFire™/NVIDIA® SLI™構成のセットアップ

A. システム要件

- Windows 8.1/8/7 オペレーティングシステム
- CrossFire/SLI対応のマザーボード (PCI Express x16スロットを2つ以上および接続ドライバ付き)
- 同じブランドのCrossFire/SLI対応グラフィックスカードおよびチップと正しいドライバ
(3-way/4-way CrossFireテクノロジーをサポートする現在のGPUには、ATI Radeon™ HD 3800、HD 4800、HD 5800シリーズ、およびAMD Radeon™ HD 6800、HD 6900、HD 7800、とHD 7900シリーズがあります。最新のGPUのサポート情報については、AMDのウェブサイト参照してください。)
- CrossFire^(注1)/SLIブリッジコネクター
- 十分な電力のある電源装置を推奨します ^(注2) (電源要件については、グラフィックスカードのマニュアルを参照してください)

B. グラフィックスカードを接続する

ステップ 1:

「1-5 拡張カードを取り付ける」のステップに従って、PCI Express x16スロットにのCrossFire/SLIグラフィックスカードを取り付けます。(2-way構成をセットアップするには、PCIEX16とPCIEX8スロットにグラフィックスカードを取り付けることをお勧めします。(3-wayのCrossFire構成をセットアップするには、PCIEX16、PCIEX8、およびPCIEX4_1スロットにグラフィックスカードを取り付けてください。)

ステップ 2:

カードの上部にあるCrossFire/SLI金縁コネクタにCrossFire^(注1)/SLIブリッジコネクターを挿入します。

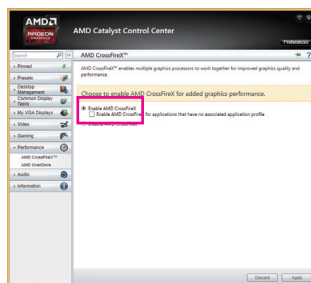
ステップ 3:

ディスプレイカードを PCIEX16 スロットに差し込みます。

C. グラフィックスカードドライバを構成する

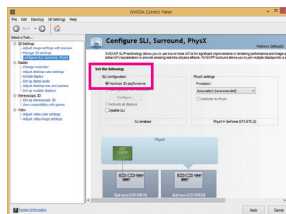
C-1.CrossFire 機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、Catalyst Control Centerに移動します。Performance\AMD CrossFireX™ Configuration を閲覧し、Enable CrossFireX™ を有効にするチェックボックスが選択されていることを確認し、お使いのシステムに 2 枚以上のCrossFireカードをお持ちである場合、使用したいGPUの組み合わせを選択し、そしてApplyを実行してください。(使用可能な組み合わせのオプションは、取り付けられたグラフィックスカードの数によって異なります。)



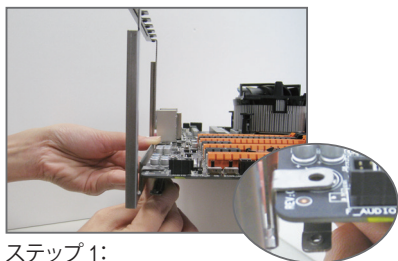
C-2.SLI機能を有効にする

オペレーティングシステムにグラフィックスカードドライバを取り付けた後、NVIDIA Control Panel/パネルに移動します。Configure SLI, Surround, Physx の設定画面を閲覧し、Maximize 3D performanceが有効になっていることを確認してください。

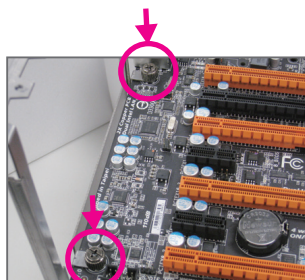


D. OCブレースのインストール (注3)

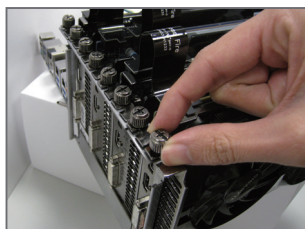
OCブレースにより、オーバークロッカーとパワーユーザーは、PCIeスロット損傷のリスクなく、またはPCIeスロットとの接触不良により、ビデオカードがOSで誤認識され表示されないということがないよう、テストベッドに最大4個のグラフィックカードを安全に取り付けられるようになります。次の取り付けの指示に従ってください。



ステップ 1:
示すとおり、OCブレースのねじ穴と背面プレートをマザーボードのPCIeスロット付近のねじ穴と揃えます。



ステップ 2:
付属の蝶ネジ 2個を締め (背面パネルのオーディオコネクタ付近のねじ穴から始めます)、OCブレースを所定の位置で支えます。



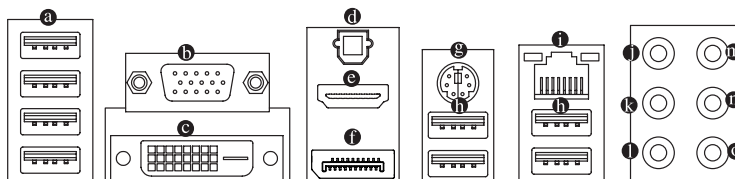
ステップ 3:
グラフィックカードを取り付けたら、付属の蝶ネジを用いてグラフィックカードの金属製ブラケットをOCブレースに固定します。

- (注 1) ブリッジコネクタはグラフィックスカードによって必要としない場合があります。
- (注 2) 2つ以上のグラフィックカードが取り付けられている場合、電源からの電源ケーブルを OC_PEGコネクタに接続してシステムの安定性を確保するようお勧めします。
- (注 3) お受け取りになるコンポーネントは、図の製品と外観が異なっていることがあります。



CrossFire/SLIテクノロジーを有効にするための手順とドライバ画面は、グラフィックスカードによりわずかに異なります。CrossFire/SLIを有効にする方法について、詳細はグラフィックスカードに付属のマニュアルを参照してください。

1-7 背面パネルのコネクター



① USB 2.0/1.1 ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

② D-Sub ポート

D-SubポートはD-Sub仕様に準拠しており、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニターによって異なります。)
D-Sub 接続をサポートするモニターをこのポートに接続してください。

③ DVI-D ポート (注)

DVI-DポートはDVI-D仕様に準拠しており、1920x1200@60Hzの最大解像度をサポートします。(サポートされる実際の解像度は使用されるモニターによって異なります。)
DVI-D接続をサポートするモニターをこのポートに接続してください。

④ 光学 S/PDIF アウトコネクター

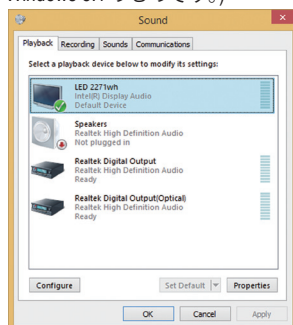
このコネクターにより、デジタル光学オーディオをサポートする外部オーディオシステムでデジタルオーディオアウトを利用できます。この機能を使用する前に、オーディオシステムに光学デジタルオーディオインコネクターが装備されていることを確認してください。

⑤ HDMI ポート

HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE HDMIポートはHDCPに対応し、ドルビーTrue HDおよびDTS HDマスターオーディオ形式をサポートしています。最大192KHz/24ビットの8チャンネルPCMオーディオ出力もサポートします。このポートを使用して、HDMIをサポートするモニターに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@24Hzまたは2560x1600@60Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



HDMI機器を設置後、必ずデフォルトの音声再生機器をHDMIに設定してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。以下のスクリーンショットはWindows 8.1のものです。)



Windows 8.1で、Apps>コントロールパネル>ハードウェアおよびサウンド>サウンド>再生を選択し、Intel(R) Display Audioをデフォルト再生デバイスに設定します。

(注) DVI-D ポートは、変換アダプタによる D-Sub 接続をサポートしていません。



- 背面パネルコネクターに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外す際は、コネクターから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクター内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

① DisplayPort

DisplayPortは、双方向音声送信をサポートする高品質デジタル画像処理とオーディオを提供します。DisplayPortは、DPCPとHDCPの両方のコンテンツ保護メカニズムをサポートできます。このポートを使用して、DisplayPortをサポートするモニターに接続します。サポートする最大解像度は4096x2160@24Hzまたは3840x2160@60Hzですが、サポートする実際の解像度は使用するモニターに依存します。



DisplayPortデバイスをインストールした後、サウンド再生用のデフォルトデバイスがDisplayPortデバイスになっていることを確認してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。設定ダイアログボックスの前のページのHDMI設定情報を参照してください。)

オンボードグラフィックスに対するトリプルディスプレイ構成：

トリプルディスプレイ構成は、OSにマザーボードドライバをインストール後にサポートされます。BIOSセットアップまたはPOST動作時は、デュアルディスプレイ構成のみがサポートされます。

⑨ PS/2キーボード/マウスポート

このポートを使用して、PS/2マウスまたはキーボードを接続します。

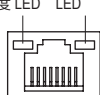
⑩ USB 3.0/2.0 ポート

USB 3.0 ポートは USB 3.0 仕様をサポートし、USB 2.0/1.1 仕様と互換性があります。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライブなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

⑪ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。

接続/速度 LED アクティビティ LED



LAN ポート

接続/速度 LED：

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED：

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

⑫ センター/サラウンドスピーカーアウト (オレンジ)

このオーディオジャックを使って、5.1/7.1チャンネルオーディオ構成のセンター/サブウーファースピーカーを接続します。

⑬ リアスピーカーアウト (黒)

このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

⑭ サイドスピーカーアウト (グレー)

このオーディオジャックを使用して、7.1チャンネルオーディオ設定のサイドスピーカーを接続します。

⑮ ラインイン (青)

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

⑯ ラインアウト (緑)

ラインアウトジャックです。この音声出力ジャックは、音声増幅機能をサポートしています。より良い音品質のために、ヘッドホン/スピーカーをこのジャックに接続することをお勧めします。ヘッドフォンまたは2チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックは4/5.1/7.1チャンネルのオーディオ構成でフロントスピーカーを接続するために使用することができます。

④ マイクイン (ピンク)

マイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

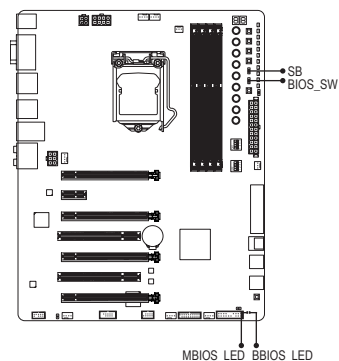


オーディオジャックは、異なる機能を実行するためオーディオソフトウェアを介して再構成することができます (各ジャックでサポートする機能は、ハードウェアの仕様により異なります)。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります。第 6 章「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」の、2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の設定に関する指示を参照してください。

1-8 オンボードボタン、スイッチ、およびLED

BIOSスイッチとBIOS LEDインジケーター

BIOSスイッチ(BIOS_SW)により、異なるBIOSを容易に選択して起動させ、オーバークロックを行い、オーバークロックの間BIOS障害を低減することができます。SBスイッチにより、デュアルBIOS機能を有効または無効にできます。LEDインジケーター (M BIOS_LED/B BIOS_LED) は、アクティブなBIOSを示します。



BIOSスイッチ:

BIOS_SW



1: メインBIOS (メインBIOSから起動)



2: バックアップBIOS (バックアップBIOSから起動)



1: Dual BIOS



2: Single BIOS

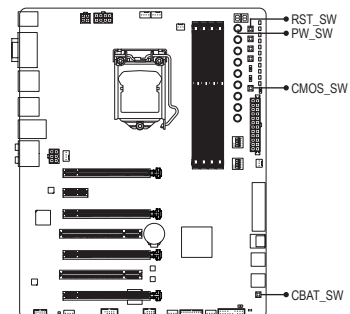
BIOS LEDインジケーター:

M BIOS_LED (メインBIOSがアクティブです)

B BIOS_LED (バックアップBIOSがアクティブです)

クイックボタン

マザーボードには電源、リセット、CMOSクリア、およびバッテリークリアという4つのクイックボタンがあります。電源ボタンとリセットボタンでは、ハードウェアコンポーネントを変更したりハードウェアテストを実行するとき、ケースを開いた環境下でコンピュータのオン/オフまたはリセットを素早く行うことができます。このボタンを使用すると、BIOS 設定をクリアし、必要に応じて CMOS 値を出荷時既定値にリセットできます。バッテリークリアボタンには、マザーボードからバッテリーを取り外すのと同じ機能があります。



PW_SW: 電源ボタン

RST_SW: リセットボタン

CMOS_SW: クリアCMOSボタン

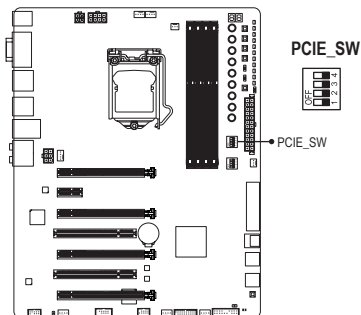
CBAT_SW: バッテリークリアボタン



- CMOSクリアボタンを使用する前に、必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- バッテリークリアボタンを用いる前に必ず電源をオフにしてください。このボタンを押したら、必ず5分待ってからコンピュータの電源をオンにしてください。
- システムの電源がオンのときはCMOSクリアボタンまたはバッテリークリアボタンを使用しないでください。システムがシャットダウンしてデータが失われたり、損傷が起こる恐れがあります。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第2章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

OC PCIeスイッチ (PCIE_SW)

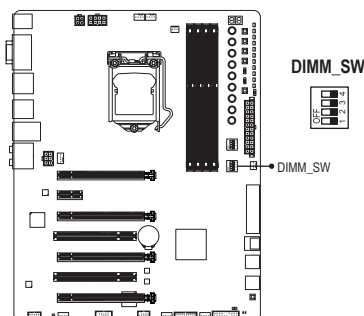
このスイッチにより、物理的に取り外すことなく特定のPCI Expressスロットを手動でオフにできます (PCI Express x1スロットを除きます)。



スロット	DIP設定			
	DIP 1	DIP 2	DIP 3	DIP 4
PCIEX16の無効化	OFF	ON	ON	ON
PCIEX4_1の無効化	ON	OFF	ON	ON
PCIEX8の無効化	ON	ON	OFF	ON
PCIEX4_2の無効化	ON	ON	ON	OFF

OC DIMM スイッチ (DIMM_SW)

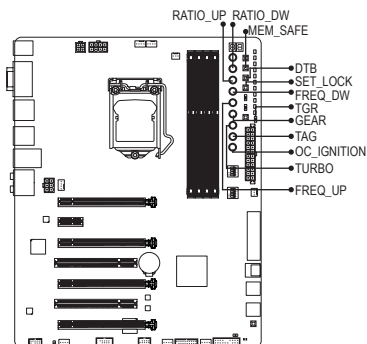
このスイッチは、手動で物理的に外すことなく、特定のメモリスロットを認識させないにすることができます。(注:OC DIMMスイッチを使用すると、メモリの互換性に影響を与える可能性がある。)



スロット	DIP設定			
	DIP 1	DIP 2	DIP 3	DIP 4
Channel A の無効化 (DDR3_2 & DDR3_4)	OFF	ON	--	--
Channel B の無効化 (DDR3_1 & DDR3_3)	ON	OFF	--	--

OCボタン

GIGABYTE独自のOCボタンは、パワーユーザーとオーバークロッカーがハードウェアから最高性能を得られるだけでなく、リアルタイムCPUオーバークロック、プロセッサとメモリに最適なオーバークロック構成の自動読み込み、およびユーザーがカスタマイズした設定の読み込みなどの機能により、絶対的に最も楽しいOC体験も得られます。



CPU倍率ダウンボタン (RATIO_DW):

CPU使用率を低くします。

CPU倍率アップボタン (RATIO_UP):

CPU使用率を高くします。

CPU BCLKダウンボタン (FREQ_DW):

CPUのベースクロックを低くします。

CPU BCLKアップボタン (FREQ_UP):

CPUのベースクロックを高くします。

ギア ボタン

0.1 MHzまたは1 MHz単位でBCLKステッピングを変更します。

OCイグニッションボタン (OC_IGNITION):

OCイグニッション機能は、システムのシャットダウン中にマザーボードおよび接続されたコンポーネントの電力を維持します。このボタンを押したら、必ず電源ボタンを押して有効にしてください。

OCターボボタン (TURBO):

このボタンを押すと、お使いのプロセッサとメモリにGIGABYTEの最適なオーバークロック構成を読み込みます。

OCタグボタン (TAG):

このボタンにより、CMOS をクリア後にカスタム設定を適用できるようにカスタマイズ設定を読み込みます (BIOS 設定で作成される Save to Tag プロファイルを使用)。

メモリセーフボタン (MEM_SAFE):

メモリセーフボタンを押すとフェールセーフモードに入ります。ここでは、システムはDDR3のDIMM速度またはCASの格付けにかかわらず、セーフメモリ構成で起動します。The system will reboot after completion. (注: メモリセーフに入ると、システムメモリ性能に影響を与えることがあります。)

設定ロックボタン (SET_LOCK):

GIGABYTEの設定ロックボタンにより、システムはCMOSをクリアした後でも、自動的に直前に成功した設定を記憶します。ワンタッチで、設定ロックボタンは以前の良好な設定に素早く戻します。BIOSを完璧に変えるオーバークロッカーには非常に役立つツールです。

BIOSダイレクトボタン (DTB):

このボタンにより、ユーザーはシステム再起動前にいつでもより直接BIOSに入りやすくなります。(POST処理中にこのボタンを押すと、即時にBIOS設定に入ることができます。POST処理後にこのボタンを押すと、システムは次回起動時に直接BIOS設定に入ります。)

OCトリガースイッチ (TGR):

このスイッチにより、オーバークロッカーはすぐに低周波数と超高周波数間をジャンプできるようになります。システム起動およびOSの最適化中に低周波数のままにした後、オーバークロッカーはトリガースイッチを入れて即時に対象周波数に当て、スコア送信を保存し、スクリーンショットを取り込み、レコードタンブルを見ることができます。

 1: BIOS設定または他のオーバークロックングアプリケーションで設定した対象周波数

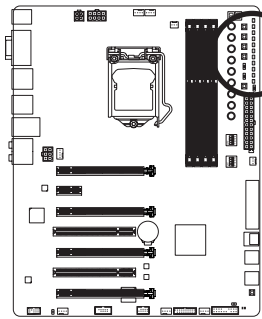
 2: 安全な周波数 (最低CPU率はCPUによって異なります)



オーバークロック ボタンを使用する前に、BIOS設定を工場出荷時設定に戻すため、必ずBIOSセットアップの最適化された初期設定を読み込んでください。

オンボード電圧測定モジュール

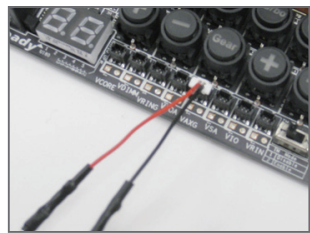
マルチメーターを使用すると VRIN、VCORE、DDRVT、PCHIO、VRING、VIO、VIOA、VAXG、VSA、PCHV、と VDIMMを含め、コンポーネント電圧を測定できます。コンポーネントの電圧を測定するには、次の2つの方法のいずれかを用います。



Pin 1 VRIN
Pin 1 VCORE
Pin 1 DDRVT
Pin 1 PCHIO
Pin 1 VRING
Pin 1 VIO
Pin 1 VIOA
Pin 1 VAXG
Pin 1 VSA
Pin 1 PCHV
Pin 1 VDIMM

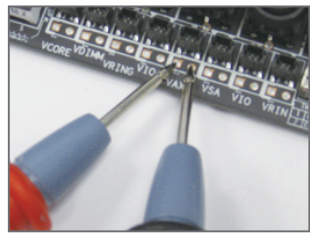
ピン番号	定義
1	電源
2	GND

方法Ⅰ (付属の電圧測定ケーブルの使用):



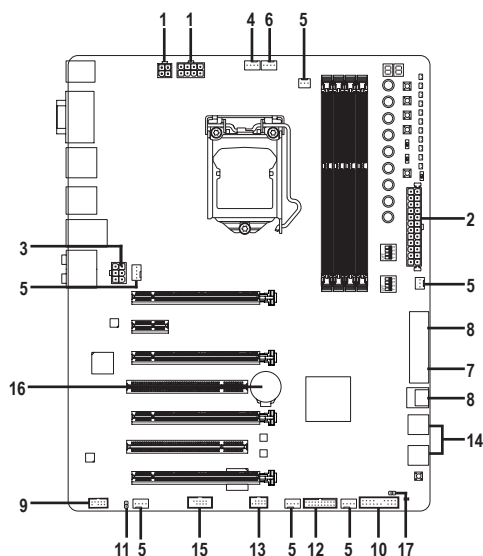
ステップ:
図のように、付属の測定ケーブルを電圧測定ヘッダーとお使いのマルチメーターに接続します。赤い線がプラスでピン1 (電源) に接続する必要がありますのでご注意ください。

方法Ⅱ (直接マルチメーターに接続する):



ステップ:
マルチメーターの赤いリード線を、電圧測定ポイントのピン (電源) に、黒いリード線をピン2 (アース) に接続します。

1-9 内部コネクター



1) ATX_12V_2X4/ATX_12V	10) F_PANEL
2) ATX	11) SPDIF_O
3) OC_PEG	12) F_USB30
4) CPU_FAN	13) F_USB1
5) SYS_FAN1/2/3/4/5/6	14) F_USB2/F_USB3
6) CPU_OPT	15) COMA
7) SATA_EXPRESS	16) BAT
8) SATA3 0/1/2/3/4/5	17) CLR_CMOS
9) F_AUDIO	



外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

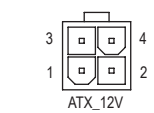
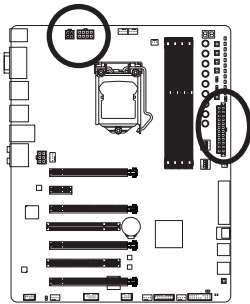
- まず、デバイスが接続するコネクターに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクターにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V/ATX_12V_2X4/ATX (2x2、2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

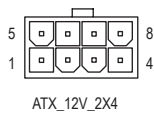
電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

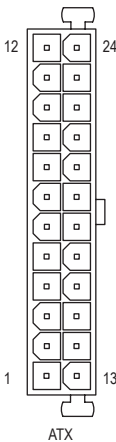
 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



ATX_12V:	
ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



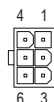
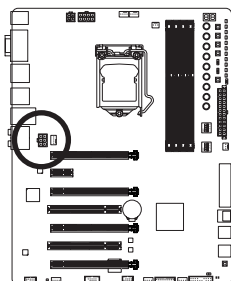
ATX_12V_2X4:	
ピン番号	定義
1	GND (2x4ピン12Vのみ)
2	GND (2x4ピン12Vのみ)
3	GND
4	GND
5	+12V (2x4ピン12Vのみ)
6	+12V (2x4ピン12Vのみ)
7	+12V
8	+12V



ATX:			
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	-5V
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3) OC PEG (PCIe電源コネクタ)

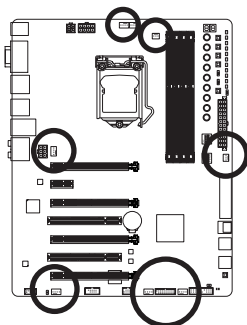
電源コネクタは、オンボードPCI Express x16スロットに補助電源を提供します。2つ以上のグラフィックカードが取り付けられている場合、電源からこのコネクタに2x3電源ケーブルを接続してシステムの安定性を確保するようお勧めします。



ピン番号	定義
1	+12V
2	+12V
3	+12V
4	GND
5	GND
6	GND

4/5) CPU_FAN/SYS_FAN1/2/3/4/5/6 (ファンヘッダ)

マザーボードには4ピンCPUファンヘッダ(CPU_FAN)、4つの4ピン (SYS_FAN1/SYS_FAN2/SYS_FAN3/SYS_FAN4) および2つの3ピン (SYS_FAN5/SYS_FAN6) システムファンヘッダが搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN



SYS_FAN1



SYS_FAN2/3/4



SYS_FAN5



SYS_FAN6

CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN1/2/3/4:

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	VCC

SYS_FAN5/6:

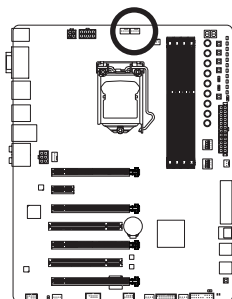
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	NC



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

6) CPU_OPT (水冷式 CPU ファンヘッド)

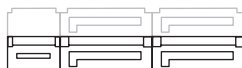
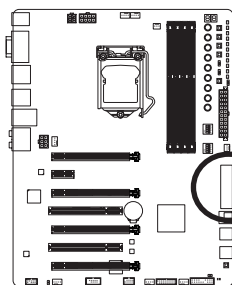
ファンヘッドは 4 ピンで、簡単に接続できるように設計されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクターワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V / 速度制御
3	検知
4	VCC

7) SATA_EXPRESS (SATA Express コネクター)

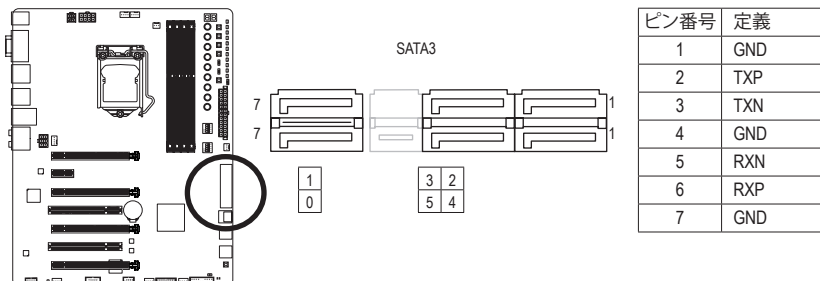
SATA Express コネクターは、単一の SATA Express デバイスをサポートします。



(SATA ExpressとSATA3 4/5のコネクターは、同時使用はできません。)

8) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/sコネクタ)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel® チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「SATA/ハードドライブを構成する」を参照してください。



- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。(ハードドライブの総数は偶数に設定する必要がありません)。
- RAID 10 構成には、ハードドライブが 4 台必要となります。
- SATA ポート ホットプラグを有効にするには、第 2 章を参照してください、「BIOS セットアップ」、「周辺機器/SATA 設定」を参照してください。

9) F. AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

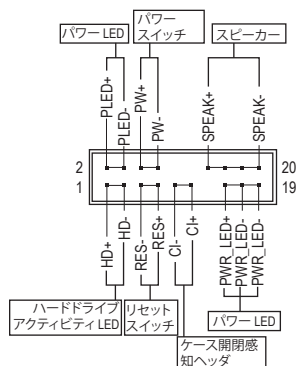
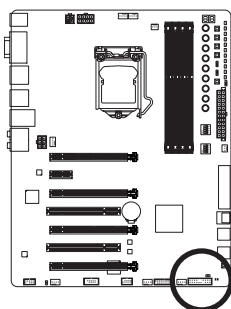
前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。PC ケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



- 前面パネルのオーディオヘッダは、標準で HD オーディオをサポートしています。PC ケースに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 6 章「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に流れています。背面パネルのオーディオ (HD 前面パネルオーディオモジュールを使用しているときのみサポート) を消音にする場合、第 6 章の「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオを設定する」を参照してください。
- PC ケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PC ケースメーカーにお問い合わせください。

10) F. PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン配列に従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知ヘッダ、ケースのインジケータ（パワーLEDやHDD LEDなど）を接続します。接続する際には、+と-のピンに注意してください。



• PLED/PWR_LED (電源LED、黄/紫):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面/パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LEDはオンになります。システムがS3/S4スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LEDはオフになります。

• PW (パワースイッチ、赤):

PCケース前面/パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第2章、「BIOSセットアップ」、「電力管理、」を参照してください)。

• SPEAK (スピーカー、オレンジ):

PCケースの前面/パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビーブコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビーブ音が1度鳴ります。

• HD (ハードドライブアクティビティLED、青):

PCケース前面/パネルのハードドライブアクティビティLEDに接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LEDはオンになります。

• RES (リセットスイッチ、緑):

PCケース前面/パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

• CI (ケース開閉感知ヘッダ、グレー):

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース侵入スイッチ/センサーを搭載したPCケースを必要とします。

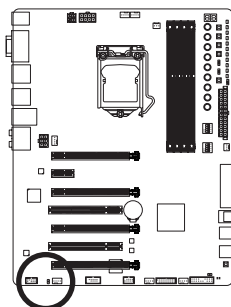


前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源LED、ハードドライブアクティビティLED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面/パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

11) SPDIF_O (S/PDIFアウトヘッダ)

このヘッダはデジタルS/PDIFアウトをサポートし、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードにS/PDIFデジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) を接続します。例えば、グラフィックスカードの中には、HDMIディスプレイをグラフィックスカードに接続しながら同時にHDMIディスプレイからデジタルオーディオを出力したい場合、デジタルオーディオ出力用に、マザーボードからグラフィックスカードまでS/PDIFデジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。

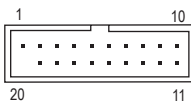
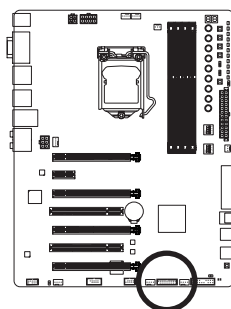
S/PDIFデジタルオーディオケーブルの接続の詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

12) F_USB30 (USB 3.0/2.0 ヘッダ)

ヘッダはUSB 3.0/2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.0/2.0対応 2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



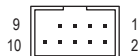
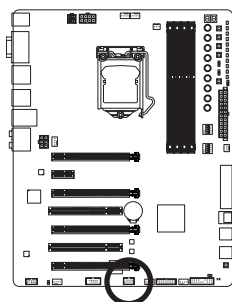
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	11	D2+
2	SSRX1-	12	D2-
3	SSRX1+	13	GND
4	GND	14	SSTX2+
5	SSTX1-	15	SSTX2-
6	SSTX1+	16	GND
7	GND	17	SSRX2+
8	D1-	18	SSRX2-
9	D1+	19	VBUS
10	NC	20	ピンなし



USB前面パネルを取り付ける前に、USB前面パネルが損傷ないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

13) F_USB1 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



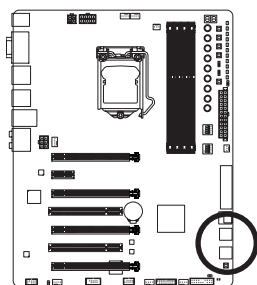
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

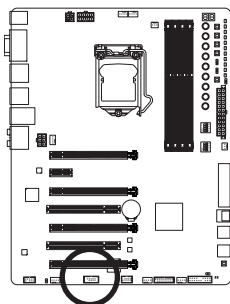
14) F_USB2/F_USB3 (USB 2.0/1.1 コネクタ)

基板をベンチ台などで使用する事を考慮し、背面I/O部の反対側にも 2 つの USB ポートを搭載しています。USB メモリーへのアクセス性が向上し、記録の保存や、BIOS ROM の読み込み、各種ソフトウェアのインストールの際に便利です。



15) COMA (シリアルポートヘッダ)

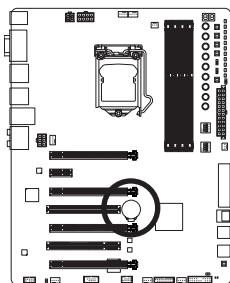
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	NDCCD-
2	NSIN
3	NSOUT
4	NDTR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NRI-
10	ピンなし

16) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS 値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS 値を消去できます：

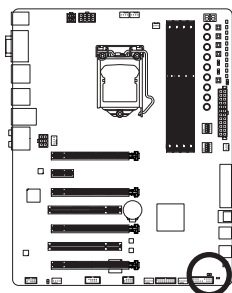
1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. バッテリーホルダからバッテリーをそっと取り外し、1 分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5 秒間ショートさせます。)
3. バッテリーを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- ・ バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフにしてから電源コードを抜いてください。
- ・ バッテリーを同等のバッテリーと交換します。バッテリーを正しくないモデルと交換すると、破裂する恐れがあります。
- ・ バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- ・ バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- ・ 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

17) CLR CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用して BIOS 設定をクリアするとともに、CMOS 値を出荷時設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。



□ □ オープン: Normal

■ ■ ショート: CMOSのクリア



- CMOS値を消去する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章「BIOS セットアップ」を参照してください)。

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flashにより、ユーザーはオペレーティングシステムに入ることなくBIOSのアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOSは、インターネットからBIOSの最新バージョンを検索しダウンロードするとともにBIOSを更新するWindowsベースのユーティリティです。

Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第 5 章、「BIOS 更新ユーティリティ」を参照してください。



- BIOSの更新は潜在的に危険を伴うため、BIOSの現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOSを更新しないことをお勧めします。BIOSの更新は注意して行ってください。BIOSの不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします(必要な場合を除く)。誤ったBIOS設定しますと、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第1章にあるバッテリーまたはクリアCMOSジャンパー概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



機能キー：

:BIOS SETUP\Q-FLASH

<Delete>キーを押してBIOSセットアップに入り、BIOSセットアップでQ-Flashユーティリティにアクセスします。

<F9>:SYSTEM INFORMATION

<F9> キーを押すとシステム情報が表示されます。

<F12>:BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく第 1 起動デバイスを設定できます。起動メニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を用いて第 1 起動デバイスを選択し、次に <Enter> キーを押して確定します。システムはそのデバイスから起動します。

注：起動メニューの設定は 1 回のみ有効です。システム再起動後のデバイスの起動順序は BIOS セットアップの設定の順序となります。

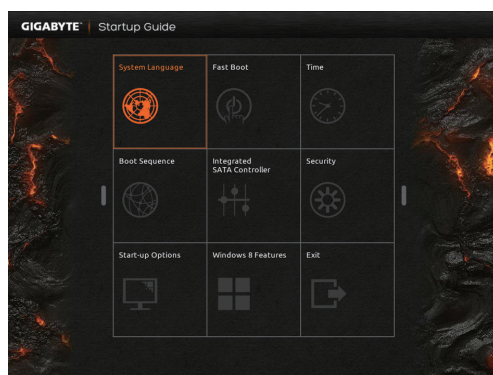
<END>:Q-FLASH

<End> キーを押すと、先に BIOS セットアップに入る必要なく直接 Q-Flash Utility にアクセスします。

2-2 メインメニュー

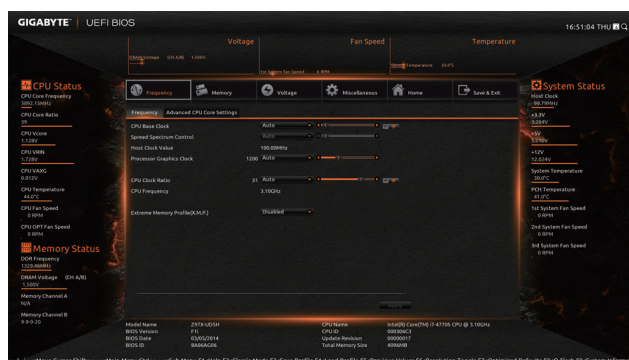
A. Startup Guide (デフォルト)

スタートアップガイド画面は、従来の複雑なBIOSセットアップメニューを最も頻繁に使用されるオプションを使い易いインターフェイスで表示されます。これは、より迅速かつ簡単に基本的なシステム設定を行うことができます。



B. ST Mode (Smart Tweak Mode)

従来のUEFIインターフェイスとは異なり、STモードでは、ユーザーが様々な設定を簡単にポイント・クリックして、最適なパフォーマンスを得るための調整を行うことができるファンシーかつユーザーフレンドリーなBIOS環境を提供します。STモードは、設定オプション間をマウスを使用して移動することができます。<F2キー>のメニューは、クイック構成や従来のBIOS設定画面に切り替えることができます。



- ・システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- ・本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

C. Classic Setup

クラシック・セットアップは、従来のBIOSセットアップのインターフェイスです。入力する項目を選択してEnterキーを押して設定します。設定項目間を移動する場合、キーボードの矢印キーを押して設定することができます。または、お使いのマウスで希望する項目を選択することができます。

(サンプル BIOS バージョン:F1k)



Classic Setupのファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+></Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<-></Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F2>	STモードまたは、スタートアップガイド画面に切り替えることができます。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F9>	システム情報を表示します。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Esc>	メインメニュー:BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー:現在のサブメニューを終了します。

BIOS セットアップメニュー

■ M.I.T.

このメニューを使用して、CPU、メモリなどのクロック、周波数、および電圧を設定します。またはシステムや CPU の温度、電圧、およびファンの速度をチェックします。

■ System Information

このメニューを使用して、BIOS が使用する既定の言語、システムの時間と日付を設定します。

■ BIOS Features (BIOS の機能)

このメニューを使用して、デバイスの起動順序、CPU で使用可能な拡張機能を設定します。

■ Peripherals (周辺機器)

このメニューを使用して、SATA、USB、オンボードオーディオ、オンボードLANなどの周辺機器をすべて設定します。

■ Power Management (電力管理)

このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。

■ Save & Exit

BIOS セットアッププログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存して BIOS セットアップを終了します。プロファイルに現在の BIOS 設定を保存したり、最適なパフォーマンスを実現するために最適化されたデフォルト値をロードすることができます。

2-3 M.I.T.



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)



表示内容については、BIOS バージョン、CPU ベースクロック、CPU 周波数、メモリ周波数、合計メモリサイズ、CPU 温度、Vcore、およびメモリ電圧に関する情報が表示されます。

▶ **M.I.T.Current Status (M.I.T 現在のステータス)**

このセクションには、CPU/メモリ周波数/パラメータに関する情報が表示されます。

▶ **Advanced Frequency Settings (周波数の詳細設定)**



➤ **Performance Upgrade (注)**

5つのオーバークロック設定が可能です。オプション: 20% Upgrade、40% Upgrade、60% Upgrade、80% Upgrade、100% Upgrade。(既定値: Auto)

➤ **CPU Base Clock**

CPUベースクロックを 0.01 MHz 刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)

重要: CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定することを強くお勧めします。

➤ **Host/PCIe Clock Frequency (注)**

ホストクロック周波数 (CPU、PCIe、およびメモリの周波数を制御) を 0.01MHz 単位で手動設定することが可能です。**CPU Base Clock** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Processor Base Clock (Gear Ratio) (注)**

複数のプリセットのホストクロックマルチプライヤによって **Host/PCIe Clock Frequency** を逡倍させることで **Processor Base Clock** を設定できます。**CPU Base Clock** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。

➤ **Spread Spectrum Control (注)**

CPU/PCI Express スペクトラム拡散を、有効または無効にします。(既定値: Auto)

➤ **Host Clock Value**

この値は、**Host/PCIe Clock Frequency** 値と **Processor Base Clock (Gear Ratio)** の値を掛けることで決定されます。

➤ **Processor Graphics Clock**

オンボードグラフィックスクロックを設定できます。調整可能な範囲は 400 MHz~4000 MHz の間です。(既定値: Auto)

➤ **CPU Upgrade (注)**

CPUの周波数を設定できます。設定は搭載するCPUによって異なります。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- **CPU Clock Ratio**
取り付けたCPUのクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けのCPUによって異なります。
- **CPU Frequency**
現在作動しているCPU周波数を表示します。
- ▶ **Advanced CPU Core Settings (CPUの詳細設定)**



- **CPU Clock Ratio, CPU Frequency**
上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。
- **K OC (注)**
特定のCPUを使用した場合に、パフォーマンスが向上します。(既定値:Auto)
- **CPU PLL Selection**
CPU PLLを設定します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Filter PLL Level**
フィルターPLLを設定します。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Uncore Ratio**
CPUのUncore ratioを設定できます。調整可能範囲は、使用されるCPUによって異なります。
- **Uncore Frequency**
現在のCPU Uncore 周波数を表示します。
- **Intel(R) Turbo Boost Technology (注)**
Intel CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Turbo Ratio (1-Core Active~4-Core Active) (注)**
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。**Auto** では、CPU仕様に従ってCPU Turbo比を設定します。(既定値:Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- **Turbo Power Limit (Watts)**
CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPUの消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPUは電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto**では、CPU仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- **Core Current Limit (Amps)**
CPU Turboモードの電流制限を設定できます。CPUの電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPUは電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto**では、CPU仕様に従って電力制限を設定します。(既定値:Auto)
- **No. of CPU Cores Enabled** (注1)
使用するCPUコアを選択します。(選択可能なCPUコア数については、CPUによって異なります。) **Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Hyper-Threading Technology** (注1)
この機能をサポートするIntel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注1)
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **C3 State Support** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPUがC3モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3状態は、C1より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **C6/C7 State Support** (注1)
システムが停止状態になっているとき、CPUがC6/C7モードに入るかどうかを決定します。有効になっているとき、CPUコア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7状態は、C3より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU Thermal Monitor** (注1)
CPU 過熱保護機能であるIntel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPUコア周波数と電圧が下がります。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **CPU EIST Function** (注1)
Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel EIST 技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)
- **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注2)
有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

 - Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - Profile1 プロファイル1設定を使用します。
 - Profile2 (注2) プロファイル2設定を使用します。

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

System Memory Multiplier

システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値:Auto)

Memory Frequency (MHz)

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)



Extreme Memory Profile (X.M.P.)^(注), System Memory Multiplier, Memory Frequency(MHz)

上の項目の設定は **Advanced Frequency Settings** メニューの同じ項目と同期しています。

Memory Overclocking Profiles^(注)

メモリの周波数を設定できます。設定は搭載するメモリによって異なります。(既定値:Disabled)

Memory Boot Mode

メモリチェックと動作方法の設定を行います。

- ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
- ▶▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。

Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)

3種類のメモリーパフォーマンスの設定を行います:Normal (基本性能)、Enhanced Stability、Enhanced Performance。(既定値:Normal)

Memory Timing Mode

Manualと**Advanced Manual**では、**Channel Interleaving**、**Rank Interleaving**、および以下のメモリのタイミング設定を構成できます。オプション:Auto (既定値)、Manual、Advanced Manual。

(注) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

Profile DDR Voltage

Non-XMPメモリモジュール、または**Extreme Memory Profile(X.M.P.)**を使用する場合は**無効**に設定され、その値は、メモリの仕様に応じて表示されます。Extreme Memory Profile (X.M.P.) が**Profile** または**Profile2**にセットされるとき、値がXMPメモリ上のSPDデータに基づいて表示されます。

Channel Interleaving

メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

Rank Interleaving

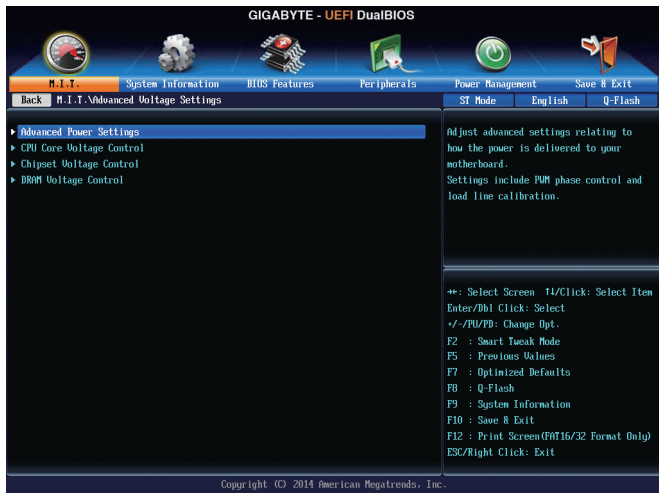
メモリランクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled**設定すると、システムはメモリのさまざまなランクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

Channel A/B Memory Sub Timings



このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリタイミング設定を行います。このサブメニューでは、メモリの各チャンネルのメモリ タイミング設定を行います。タイミング設定の各画面は、**Memory Timing Mode** が **Manual** または **Advanced Manual** の場合のみ設定可能です。注:メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になったり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

▶ Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)



▶ Advanced Power Settings (高度な電力設定)



☞ CPU VRIN Loadline Calibration

CPU VRINのロードラインキャリブレーションのレベルを設定できます。レベルは次のとおりです (高い方から低い方へ)。Extreme、Turbo、High、Medium、Low、または Standard。より高いレベルを選択すると、高負荷状態でのBIOSの設定内容とCPU V_{tt} 電圧がより一致します。**Auto**は、BIOSにこの設定を自動的に設定させ、Intelの仕様に従って電圧を設定します。(既定値: Auto)

☞ CPU VRIN Protection

CPUのVRIN電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。調整可能な範囲は150.0mV～400.0mVの間です。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

☞ **DDR CH(A/B) Voltage Protection**

過電圧保護のために、チャンネルAとチャンネルBのメモリ電圧に電圧限度を設定できます。調整可能な範囲は 150.0mV～300.0mV の間です。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ **CPU VRIN Current Protection**

CPU の VRIN 電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。

▶▶ Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値)

▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらはCPU VRIN 電圧の異なる過電流保護レベルを表しています。

☞ **DDR CH(A/B) Current Protection**

メモリ電圧に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。に対する過電流保護レベルを設定できるようになります。

▶▶ Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値)

▶▶ Standard~Extreme Standard、Low、Medium、High、Turbo、またはExtreme を選択します。これらは、メモリ電圧に対する各レベルの過電流保護を表します。

☞ **CPU VRIN PWM Thermal Protection**

CPU の VRIN 領域の PWM 熱保護しきい値を表示します。

☞ **DDR CH(A/B) PWM Thermal Protection**

チャンネルAとチャンネルBのメモリ領域に PWM 熱保護しきい値を設定できます。

☞ **CPU VRIN PWM Switch Rate**

CPU VRIN の PWM 周波数を設定できます。調整可能な範囲は 300.0KHz～400.0KHz の間です。(既定値:Auto)

☞ **DDR CH(A/B) PWM Switch Rate**

チャンネル A とチャンネル B のメモリに PWM 周波数を設定できます。調整可能な範囲は 300.0KHz～400.0KHz の間です。(既定値:Auto)

☞ **PWM Phase Control**

CPUの負荷によって PWM フェーズを自動的に変更できるようになります。省電力レベル(低い方から高い方へ): eXm Perf (極度のパフォーマンス)、High Perf (高パフォーマンス)、Perf (パフォーマンス)、Balanced (バランス)、Mid PWR (標準電力)、および Lite PWR (低電力)。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

▶ **CPU Core Voltage Control (CPU コア電圧制御)**

このセクションでは、CPU 電圧制御オプションについて記載します。

▶ **Chipset Voltage Control (チップセットの電圧制御)**

このセクションでは、チップセット電圧制御オプションについて記載します。

▶ **DRAM Voltage Control (DRAM 電圧制御)**

このセクションでは、メモリ電圧制御オプションについて記載します。

▶ PC Health Status



➤ Reset Case Open Status

- ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
- ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。

➤ Case Open

マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定を CMOS に保存してからシステムを再起動します。

- ☞ **CPU Vcore/CPU VRIN/CPU VCCIOA/DRAM Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG**
現在のシステム電圧を表示します。
- ☞ **CPU/System/PCH Temperature**
現在の CPU/チップセット/システム温度を表示します。
- ☞ **CPU/CPU OPT/System Fan Speed**
現在のCPU/CPU_OPT/ システムのファン(SYS_FAN1~SYS_FAN4)速度を表示します。
- ☞ **CPU/System Warning Temperature**
CPU/システム温度警告のしきい値を設定します。温度がしきい値を超えた場合、BIOS が警告音を発します。オプション: Disabled (既定値)、60°C/140°F、70°C/158°F、80°C/176°F、90°C/194°F。
- ☞ **CPU/CPU OPT/System Fan Fail Warning (CPU、CPU OPT、とSYS_FAN1~SYS_FAN4)**
ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)
- ☞ **CPU Fan Speed Control (CPU_FAN コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**CPU Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **CPU OPT Fan Speed Control (CPU_OPT コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**CPU_OPT Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **1st System Fan Speed Control (SYS_FAN1 コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、EasyTuneでファン速度を調整することができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
ファン速度をコントロールします。**1st System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **2nd System Fan Speed Control (SYS_FAN2 コネクター)**
ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。

- ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
 ファン速度をコントロールします。**2nd System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **3rd System Fan Speed Control (SYS_FAN3 コネクター)**
 ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
 ファン速度をコントロールします。**3rd System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。
- ☞ **4th System Fan Speed Control (SYS_FAN4 コネクター)**
 ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。
 - ▶▶ Normal システム温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。(既定値)
 - ▶▶ Silent ファンを低速度で作動します。
 - ▶▶ Manual **Fan Speed Percentage** 項目の下で、ファンの速度をコントロールします。
 - ▶▶ Full Speed ファンを全速で作動します。
- ☞ **Fan Speed Percentage**
 ファン速度をコントロールします。**4th System Fan Speed Control** が **Manual** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。オプション: 0.75 PWM value /°C ~ 2.50 PWM value /°C。

▶ Miscellaneous Settings (その他の設定)



☞ PCIe Slot Configuration

PCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。例えば、PCI Express x1スロットは、Gen 2モードまでのみサポートしています。**Auto**では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

☞ DMI Gen2 Speed

DMIリンク速度を構成することができます。

- ▶▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。
- ▶▶ Enabled DMIリンク速度をGen2にセットします。(既定値)
- ▶▶ Disabled DMIリンク速度をGen1にセットします。

☞ 3DMark01 Boost

一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値:Disabled)

2-4 System Information (システムの情報)



このセクションでは、マザーボードモデルおよびBIOSバージョンの情報を表示します。また、BIOSが使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

System Language

BIOSが使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter> で Month (月)、Date (日)、および Year (年) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:0:0 です。<Enter> で Hour (時間)、Minute (分)、および Second (秒) フィールドを切り替え、<Page Up> キーと <Page Down> キーで設定します。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセス レベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では Administrator (管理者) として表示されます。)管理者レベルでは、すべての BIOS 設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定の BIOS 設定のみが変更できます。

2-5 BIOS Features (BIOS の機能)



☞ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイス リストでは、GPT 形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI:」が付きます。GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI:」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 7 (64 ビット) など GPT パーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 7 (64 ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI:」が付いた光学ドライブを選択します。

☞ Bootup NumLock State

POST 後にキーボードの数字キーパッドにある NumLock 機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

Security Option

パスワードは、システムが起動時、または BIOS セットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Administrator Password/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶▶ Setup パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶▶ System パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTE ロゴの表示設定をします。**Disabled** にすると、システム起動時に GIGABYTE ロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

Fast Boot

Fast Boot を有効または無効にして OS の起動処理を短縮します。**Ultra Fast** では起動速度が最速になります。(既定値: Disabled)

VGA Support

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

- ▶▶ Auto 従来のオプション ROM のみを有効にします。
- ▶▶ EFI Driver EFI オプション ROM を有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

USB Support

- ▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 USB デバイスは無効になっています。
- ▶▶ Full Initial オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 USB デバイスは機能します。
- ▶▶ Partial Initial OS ブートプロセスが完了するまで、一部の USB デバイスは無効になっています。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

PS2 Devices Support

- ▶▶ Disabled OS ブートプロセスが完了するまで、全 PS/2 デバイスは無効になっています。
- ▶▶ Enabled オペレーティングシステムおよび POST 中は、全 PS/2 デバイスは機能します。(既定値)

Fast Boot が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。**Fast Boot** が **Ultra Fast** に設定されている場合、この項目は無効になります。

NetWork Stack Driver Support

- ▶▶ Disabled ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)
- ▶▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

Next Boot After AC Power Loss

- ▶▶ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)
- ▶▶ Fast Boot 電源復帰後も Fast Boot 設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot** が **Enabled** または **Ultra Fast** に設定された場合のみ設定可能です。

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **Limit CPUID Maximum** (注)

CPUID 最大値の制限設定を行います。Windows XP ではこのアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムでは **Enabled** に設定します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Execute Disable Bit** (注)

Intel® Execute Disable Bit (Intel メモリ保護) 機能の有効/無効を切り替えます。この機能は、コンピュータの保護を拡張して、サポートするソフトウェアおよびシステムと一緒に使用することでウィルスの放出および悪意のあるバッファのオーバーフロー攻撃を減少させることができます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Intel Virtualization Technology** (注)

Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。Intel® 仮想化技術によって強化されたプラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行できます。仮想化技術では、1つのコンピュータシステムが複数の仮想化システムとして機能できます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Intel TXT(LT) Support** (注)

Intel® Trusted Execution Technology (Intel® TXT) を有効または無効にします。Intel® Trusted Execution Technology は、ハードウェアベースのセキュリティを提供します。(既定値: Disabled)
- ☞ **Dynamic Storage Accelerator**

Intel® Dynamic Storage Accelerator を有効または無効にします。有効にすると、ハードドライブの負荷に従って入出力性能が調整されます。(既定値: Disabled)
- ☞ **VT-d** (注)

Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- ☞ **Windows 8 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値: Other OS)
- ☞ **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

 - ☛ Always UEFI CSM を有効にします。(既定値)
 - ☛ Never UEFI CSM を無効にし、UEFI BIOS 起動プロセスのみをサポートします。

Windows 8 Features が **Windows 8** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **Boot Mode Selection**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

 - ☛ UEFI and Legacy 従来のオプションROMまたはUEFIのオプションROMをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。(既定値)
 - ☛ Legacy Only 従来のオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。
 - ☛ UEFI Only UEFIのオプションROMのみをサポートするオペレーティングシステムから起動できます。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- ☞ **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値: Disabled)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Disabled オプションROMを無効にします。
- ▶▶ Legacy only レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ▶▶ UEFI only UEFIのオプションROMのみを有効にします。
- ▶▶ Legacy First レガシーのオプションROMを先に有効にします。
- ▶▶ UEFI First UEFIのオプションROMを先に有効にします。

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Other PCI Device ROM Priority**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶▶ Legacy OpROM 従来のオプションROMのみを有効にします。
- ▶▶ UEFI OpROM UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Support が **Always** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

☞ **Network stack**

Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値:Disabled)

☞ **IPv4 PXE Support**

IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **IPv6 PXE Support**

IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。**Network stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

☞ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザーパスワード)を入力する必要があります。ユーザーパスワードと異なり、管理者パスワードではすべてのBIOS 設定を変更することが可能です。

☞ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザーパスワード)を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定のBIOS 設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

2-6 Peripherals (周辺機器)



Initial Display Output

取り付けたPCIグラフィックスカード、PCI Expressグラフィックスカード、またはオンボードVGAから、最初に呼び出すモニタディスプレイを指定します。

- ▶▶ IGFX 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
- ▶▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックカードを設定します。(既定値)
- ▶▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4_1スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ▶▶ PCIe 3 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX8 スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ▶▶ PCIe 4 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4_2スロットにあるグラフィックカードを設定します。
- ▶▶ PCI PCIスロットにあるグラフィックスカードを最初に処理するディスプレイカードとして設定します。

xHCI Mode

OSのxHCIコントローラーのオペレーティングモードを決定できます。

- ▶▶ Smart Auto BIOSがブート前環境でxHCIコントローラーをサポートしている場合のみこのモードが使用可能です。このモードはAutoに類似していますが、ブート前環境で(非G3ブートの場合) 前回ブート時に使用した設定に従ってxHCIまたはEHCIにポートをルーティングする機能を追加します。OSの起動前にUSB 3.0デバイスの使用が可能になります。前回のブートでポートをEHCIにルーティングした場合、xHCIコントローラーの有効化とリルーティングは、Autoのステップに従って行います。注:BIOSがxHCIの起動前サポートに対応している場合に推奨するモードです。(既定値)
- ▶▶ Auto BIOSは、共有ポートをEHCIコントローラーにルーティングします。続いて、ACPIプロトコルを用いてxHCIコントローラーの有効化と共有ポートのリルーティングを可能にするオプションを提供します。注:BIOSがxHCIのブート前サポートに対応していない場合に推奨するモードです。
- ▶▶ Enabled 結果として、すべての共有ポートがBIOSの起動プロセス中にxHCIコントローラーにルーティングされます。BIOSがxHCIコントローラーの起動前サポートに対応していない場合、最初は共有ポートをEHCIコントローラーにルー

- ティングし、その後OSブートの前にポートをxHCIコントローラーにルーティングする必要があります。注:このモードではOSがxHCIコントローラーをサポートしている必要があります。OSがサポートしていない場合、すべての共有ポートが動作しません。
- ▶ Disabled USB 3.0ポートはEHCIコントローラーにルーティングし、xHCIコントローラーをオフにします。すべてのUSB 3.0デバイスは、xHCIソフトウェアのサポートが使用可能かに関係なく高速デバイスとして機能します。
- ◀ **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製拡張オーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- ◀ **Intel Processor Graphics**
オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
- ◀ **Intel Processor Graphics Memory Allocation**
オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。オプション:32M~1024M、(既定値:64M)
- ◀ **DVMT Total Memory Size**
オンボードグラフィックスのDVMTメモリサイズを割り当てることができます。オプション:128M、256M、MAX、(既定値:MAX)
- ◀ **Intel(R) Rapid Start Technology**
Intel® Rapid Start テクノロジーを有効または無効にします。(既定値:Disabled)
- ◀ **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値:Enabled)
- ◀ **XHCI Hand-off**
XHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの XHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Enabled)
- ◀ **EHCI Hand-off**
EHCI ハンドオフのサポートなしでオペレーティングシステムの EHCI ハンドオフ機能を有効にするかを決定します。(既定値:Disabled)
- ◀ **USB Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
- ◀ **Two Layer KVM Switch**
2つのKVMスイッチを繋ぐ場合、適切なデバイスの機能性を確保するために、有効に設定してください。(既定値:Disabled)
- ◀ **OnBoard LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値:Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目をDisabledに設定します。
- ◀ **PCIe Slot Configuration (PCH)**
PCIEX4_2スロットの動作バンド幅を指定します。
- ▶ Auto 取り付けられている拡張カードによって、BIOSはこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶ x4 PCIEX4_2 は x4 モードで作動します。PCIEX1スロットは使用になれません。
 - ▶ x1 PCIEX4_2 は x1 モードで作動します。
- ◀ **PCIe Slot Configuration (CPU)**
PCIEX4_1スロットの動作バンド幅を指定します。
- ▶ Auto 取り付けられている拡張カードによって、BIOSはこの設定を自動的に構成します。(既定値)
 - ▶ x4 PCIEX4_1 は x4 モードで作動します。

▶ SATA Configuration



Integrated SATA Controller

統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

SATA Mode Selection

チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。

- ▶ IDE SATAコントローラーをIDEモードに構成します。
- ▶ RAID SATAコントローラーに対してRAIDモードを有効にします。
- ▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI)は、ストレージドライバがNCQ(ネイティブ・コマンド・キューイング)およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)

SATA Express SRIS capabilities

SATA ExpressのSRIS (Separate Reference Clocks with Independent SSC) モードを有効または無効に設定することができます。(既定値: Disabled)

▶ Serial ATA Port 0/1/2/3/4/5

Port 0/1/2/3/4/5

各SATAポートを有効または無効にします。(既定値: Enabled)

Hot plug

各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値: Disabled)

External SATA

追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

▶ Super IO Configuration

このセクションでは、スーパー I/O チップ上の情報を提供し、シリアルポートを設定します。

Serial Port A

オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)

▶ Intel(R) Smart Connect Technology

ISCT Configuration

Intel® Smart Connect Technology の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

2-7 Power Management (電力管理)



Power Loading

ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値:Auto)

Resume by Alarm

任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値:Disabled)

有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:

▶▶ Wake up day:ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。

▶▶ Wake up hour/minute/second:自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。

注:この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたはAC電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。

Soft-Off by PWR-BTTON

電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。

▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)

▶▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

RC6(Render Standby)

オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値:Enabled)

AC BACK

AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。

▶▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)

▶▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。

▶▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。

Power On By Keyboard

PS/2 キーボードのからの入力によりシステムの電源をオンにすることが可能です。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶ Password 1-5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。

Power On Password

Power On By Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。

このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶ Move マウスを移動させてシステムの電源をオンにします。
- ▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

ErP

S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)

注:このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。PME イベントからの起動、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン、LAN からの起動。

Platform Power Management

有効またはアクティブ状態の電源管理機能 (ASPM) を無効にします。(既定値: Disabled)

PEG ASPM

CPUのPEG/バスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Auto)

PCIe ASPM

チップセットのPCI Express/バスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Auto)

CPU DMI Link ASPM Control

DMIリンクのCPU側のためのASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: L0sL1)

PCH DMI Link ASPM Control

CPU側およびDMIリンクのチップセット側の両方にASPMモードを設定することができます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。この設定項目は、**Platform Power Management** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Enabled)

2-8 Save & Exit (保存して終了)



- **Save & Exit Setup**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS の変更が保存され、BIOS セットアッププログラムを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Exit Without Saving**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。**No** を選択するかまたは <Esc> を押すと、BIOS セットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**
この項目で <Enter> を押し、**Yes** を選択して BIOS の最適な初期設定を読み込みます。BIOS の初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOS のアップデート後または CMOS 値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**
直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで <Enter> を押し、**Yes** を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**
この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できるようになります。最大 8 つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル 1～セットアッププロファイル 8 として保存することができます。または **Select File in HDD/USB/FDD** を選択してプロファイルストレージデバイスに保存します。**Select TAG Profile** (TAG プロファイルの選択) により、プロファイル 1 からプロファイル 8 のいずれかを TAG プロファイルとして指定できます。これは、マザーボードの OC Tag ボタンを押すと読み込まれます。
- **Load Profiles**
システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter> を押して完了します。**Select File in HDD/USB/FDD** を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後の BIOS 設定 (最後の既知の良好レコード) に戻すなど、BIOS が自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 SATA ハードドライブの設定

RAIDレベル

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	≥4
アレイ容量	ハードドライブの数*最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数-1)*最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数/2)*最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

SATA ハードドライブを設定するには、以下のステップに従ってください：

- コンピュータに SATA ハードドライブを取り付ける。
- BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定します。
- RAID BIOS で RAID アレイを設定します。^(注1)
- SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。^(注2)

始める前に

以下を準備してください：

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ (最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAIDを使用しない場合、準備するハードドライブは 1 台のみでご利用下さい。
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ。

3-1 SATA コントローラーを構成する

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方の端を SATA ハードドライブの背面に、もう一方の端をマザーボードの空いている SATA ポートに接続します。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

(注1) SATA コントローラーで RAID を作成しない場合、このステップをスキップしてください。

(注2) SATA コントローラーが AHCI または RAID モードに設定されているときに要求されます。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラーモードを設定する

SATA コントローラーコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ 1:

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト) 中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。Peripherals/SATA Configuration に移動します。Integrated SATA Controller が有効であることを確認してください。RAID を作成するには、SATA Mode Selection を RAID にします (図 1)。RAID を作成しない場合、この項目を IDE または AHCI に設定します。



図 1

ステップ 2:

UEFI RAID を構成する場合は「C-1」のステップに従ってください。従来の RAID ROM に入るには、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。詳細情報については「C-2」を参照してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C-1.UEFI RAID の設定

Windows 8.1/8 64bitのみUEFI RAID構成をサポートしています。

ステップ 1:

BIOS セットアップで、**BIOS Features** に移動し、**Windows 8 Features** を **Windows 8** に、**CSM Support** を **Never** に設定します。変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。



図 2

ステップ 2:

システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて **Peripherals**/Intel(R) Rapid Storage Technology サブメニューに入ります (図 3)。



図 3

ステップ 3:

Intel(R) Rapid Storage Technology メニューにおいて、Create RAID Volume で <Enter> を押して Create RAID Volume 画面に入ります。Name の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、下矢印キーを用いて Select Disks に移動します。



図 4

ステップ 4:

Select Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。選択するハードドライブ上で <スペース> キーを押します (選択したハードドライブには "X" の印が付きます)。ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、容積容量を設定します。



図 5

ステップ 5:
容量を設定後、**Create Volume** に移動し、<Enter> を押して開始します。(図 6)



図 6

完了すると、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で <Enter> を押して RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します (図 7)。

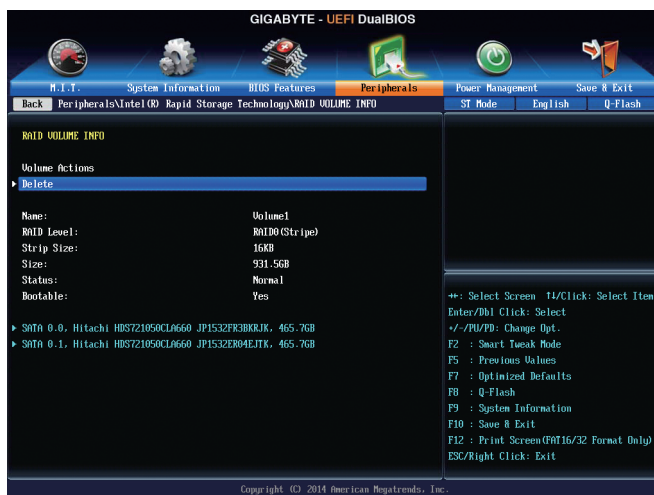


図 7

Delete RAID Volume

RAID アレイを削除するには、Intel(R) Rapid Storage Technology 画面において削除するボリューム上で <Enter> を押します。RAID VOLUME INFO 画面に入ったら、Delete で <Enter> を押して Delete 画面に入ります。Yes で <Enter> を押します (図 8)。

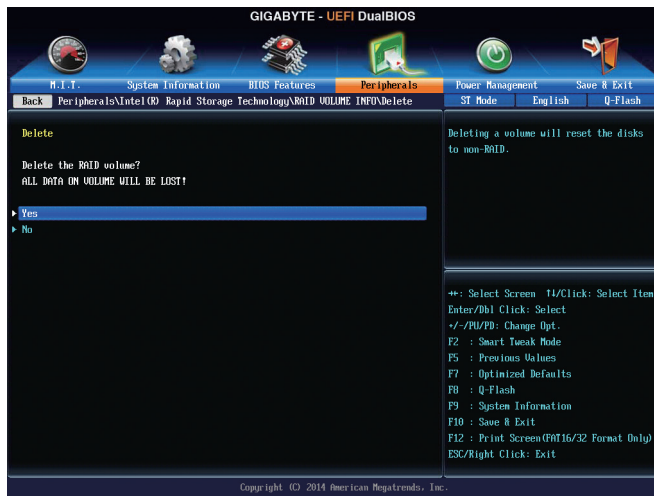


図 8

C-2.Legacy RAID ROMを設定する

Intel® legacy RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。非 RAID 構成の場合、このステップをスキップし、Windows オペレーティングシステムのインストールに進んでください。

ステップ 1:

POST メモリテストが開始された後でオペレーティングシステムがブートを開始する前に、「Press <Ctrl> + <I> to enter Configuration Utility」(図 9)。<Ctrl> + <I>を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。

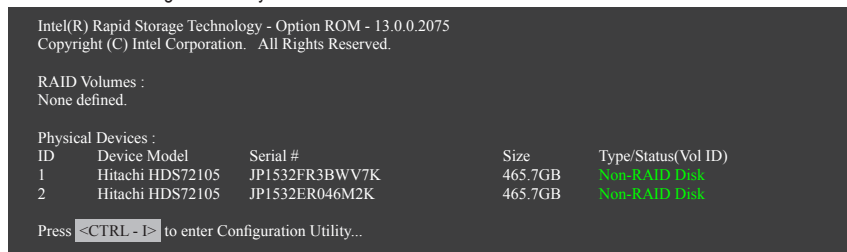


図 9

ステップ 2:

<Ctrl> + <I> を押すと、MAIN MENU スクリーンが表示されます (図 10)。

RAIDボリュームを作成する

RAID アレイを作成する場合、MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し <Enter> を押します。

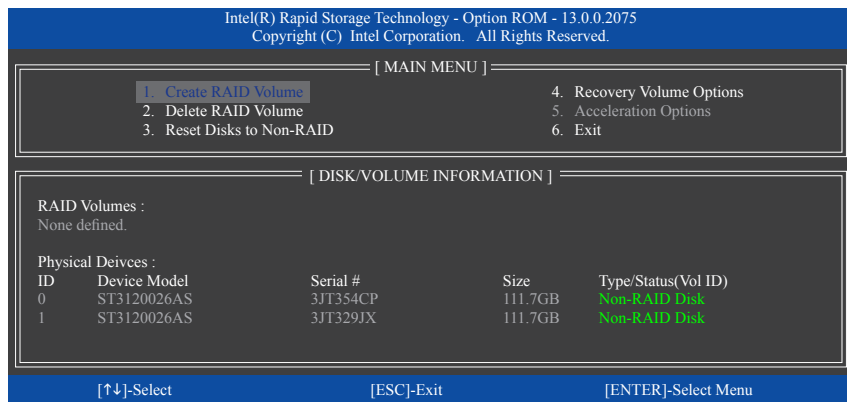


図 10

ステップ 3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** の項目で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 11)。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

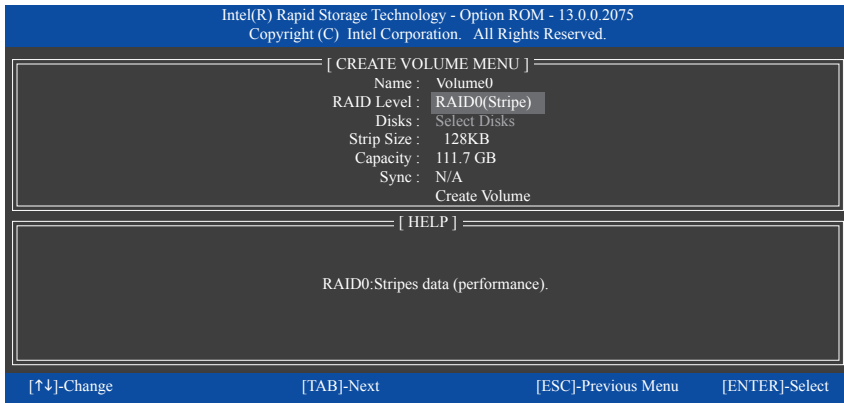


図 11

ステップ 4:

Disks の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2台のみの場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 12) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB~128 KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択してから、<Enter> を押します。

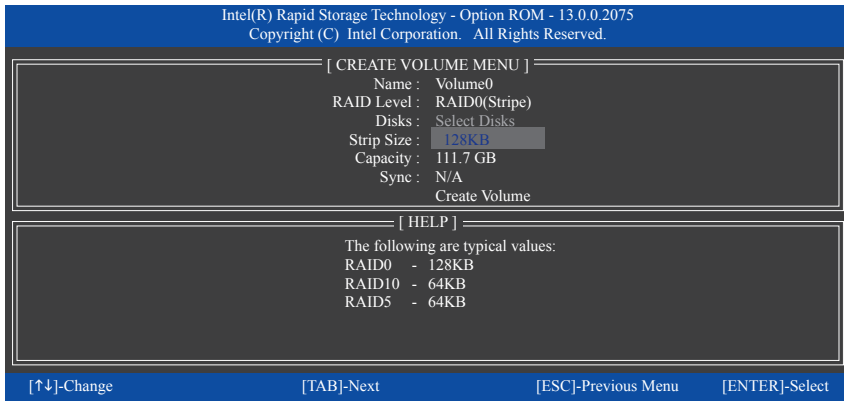


図 12

ステップ 5:
アレイの容量を入力し、<Enter> を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押して確認するか <N> を押してキャンセルします (図 13)。

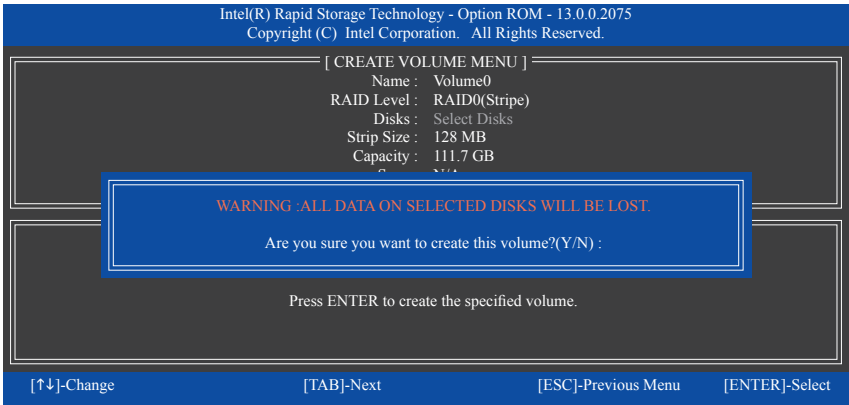


図 13

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます (図 14)。

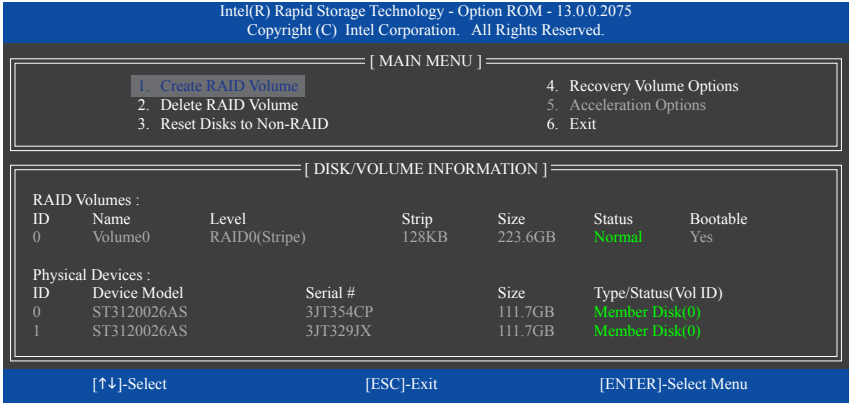


図 14

RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で 6. **Exit** を選択します。

これで、SATA RAID/AHCI ドライバディスクットを作成し、SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールできるようになりました。

リカバリボリュームオプション

Intel® Rapid Recover Technologyでは指定されたリカバリドライブを使用してデータとシステム操作を容易に復元できるようにすることで、データを保護しています。Rapid Recovery Technology では、RAID 1 機能を採用しているため、マスタードライブからリカバリドライブにデータをコピーすることができます。必要に応じて、リカバリドライブのデータをマスタードライブに復元することができます。

始める前に：

- リカバリドライブは、マスタードライブより大きな容量にする必要があります。
- リカバリボリュームは、2 台のハードドライブがある場合のみ作成できます。リカバリボリュームと RAID アレイはシステムに同時に共存することはできません。つまり、リカバリボリュームがすでに作成されている場合、RAID アレイを作成できません。
- デフォルトで、オペレーティングシステムにはマスタードライブのみが表示されます。リカバリドライブは非表示にされています。

ステップ 1:

MAIN MENU で **Create RAID Volume** を選択し、<Enter>を押します (図 15)。

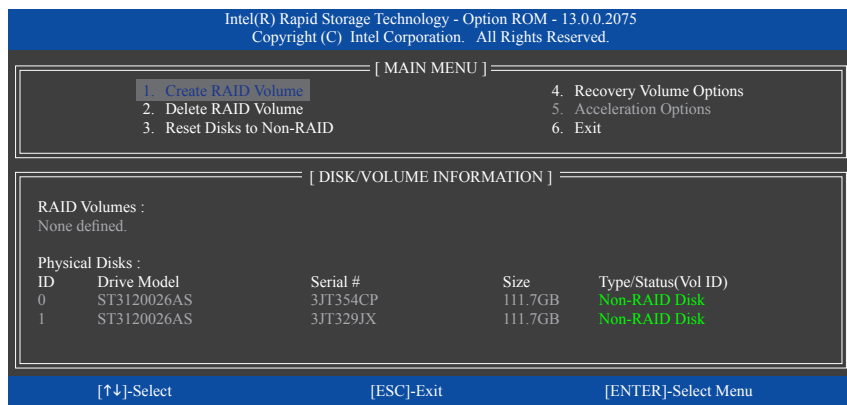


図 15

ステップ 2:

ボリューム名を入力した後、**RAID Level** アイテムの下で **Recovery** を選択し<Enter>を押します (図 16)。

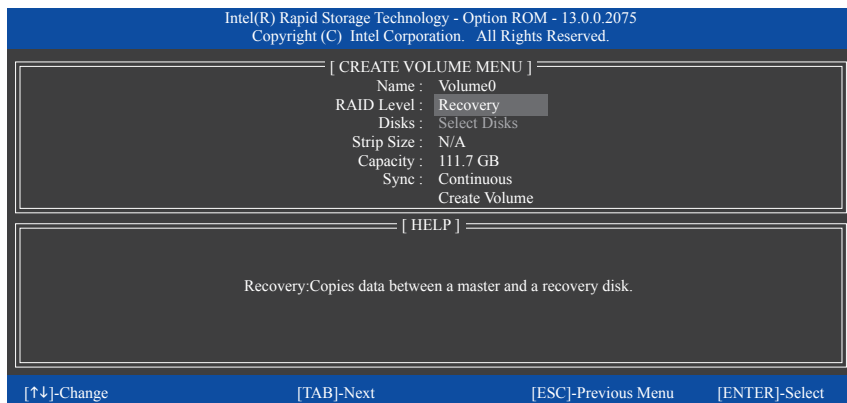


図 16

ステップ 3:

Select Disks アイテムの下で、<Enter>を押します。**SELECT DISKS** ボックスで、マスタドライブに対して使用するハードドライブには<Tab>を押し、リカバリドライブに対して使用するハードドライブには <Space> を押します。(リカバリドライブの容量がマスタドライブの容量より大きいことを確認してください) <Enter>を押して確認します (図 17)。

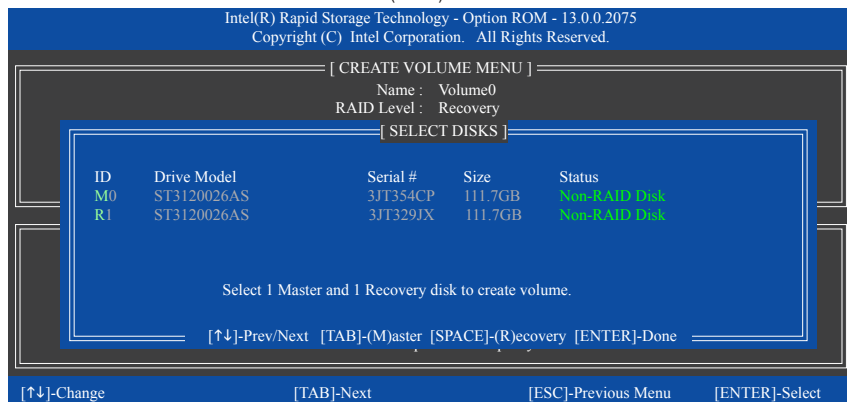


図 17

ステップ 4:

Sync の項目を、**Continuous** または **On Request** を選択します (図 18)。**Continuous** に設定されているとき、両方のハードドライブがシステムに取り付けられていれば、マスタドライブのデータを変更するとその変更はリカバリドライブに自動的かつ連続してコピーされます。**On Request** では、オペレーティングシステムの Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを使用してマスタドライブからリカバリドライブに手動でデータを更新できます。**On Request** では、マスタドライブを以前の状態に復元することもできます。

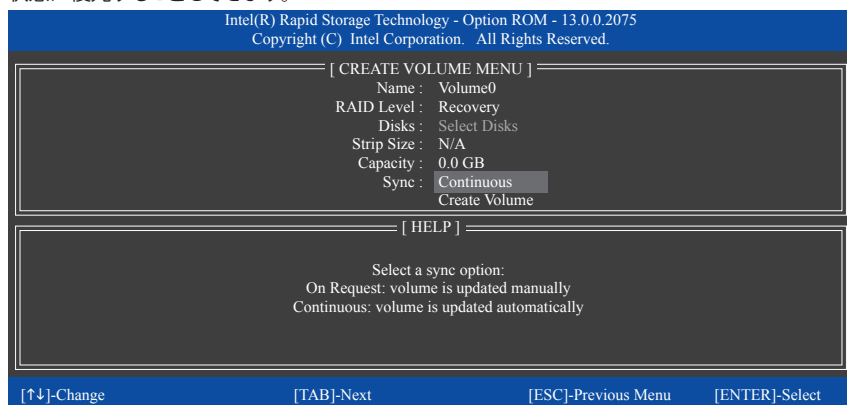


図 18

ステップ 5:

最後に、**Create Volume** の項目で <Enter> を押してリカバリボリュームの作成を開始し、オンスクリーンの指示に従って完了します。

Delete RAID Volume

RAID アレイを削除するには、**MAIN MENU** で **Delete RAID Volume** を選択し、<Enter> を押します。**DELETE VOLUME MENU** セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら (図 19)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

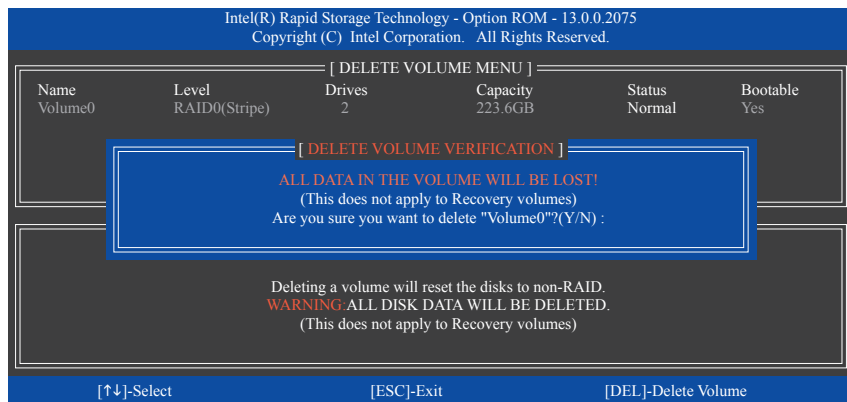


図 19

Acceleration Options

このオプションにより、Intel® IRSTユーティリティを使用して作成された高速化ドライブ / ボリューム (図 20) の状態を表示できるようになります。アプリケーションエラーまたはオペレーティングシステムの問題によりIntel® IRSTユーティリティを動作させることができなくなった場合は、RAID ROMユーティリティにあるこのオプションを使用して、高速化をなくすかまたは手動で同期を有効にする必要があります (最大化モードのみ)。

ステップ:

Acceleration Options で **MAIN MENU** を選択し、<Enter>を押します。

高速化をなくすために、高速化するドライブ/ボリュームを選択してから <R> を押し、<Y> で確定します。

キャッシュデバイスと高速化ドライブ/ボリュームのデータを同期するには、<S> を押してから <Y> を押して確定します。

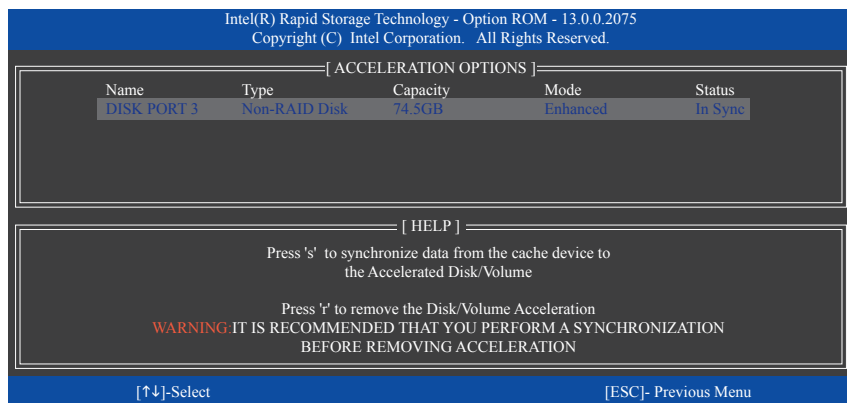


図 20

3-2 SATA RAID/AHCI ドライバーとオペレーティングシステムのインストール

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。

A. オペレーティングシステムをインストール

Windows 7 にはすでに Intel® SATA RAID/AHCI ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセスの間、RAID/AHCI を個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。Windows 8.1/8 をインストールするには以下のステップを参照してください。

ステップ 1:

ドライバディスクの **BootDrv** にある **IRST** フォルダをお使いの USBメモリドライブにコピーします。

ステップ 2:

Windows 8 セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse** を選択します。

ステップ 3:

USBメモリドライブを挿入し、ドライバの場所を閲覧します。ドライバの場所は次の通りです。

Windows 32 ビット: \IRST\32Bit

Windows 64 ビット: \IRST\64Bit

ステップ 4:

図 1 に示した画面が表示されたら、**Intel(R) Desktop/Workstation/Server Express Chipset SATA RAID Controller** を選択し、**Next** をクリックしてドライバをロードし OS のインストールを続行します。

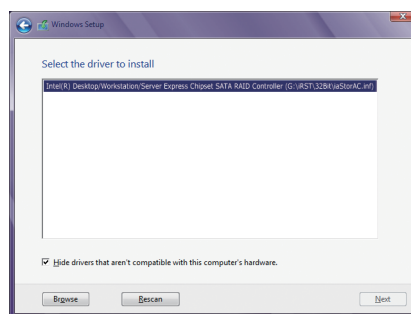


図 1

B. アレイを再構築する

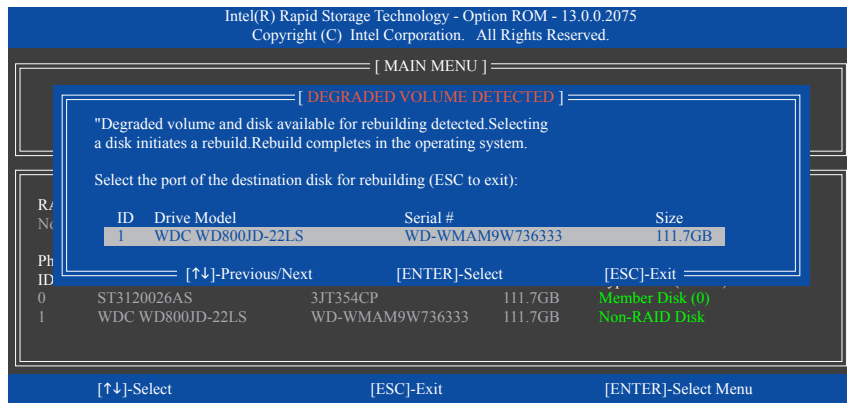
再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5、RAID 10 アレイに対してのみ、適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注:新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。

・ 自動再構築を有効にする

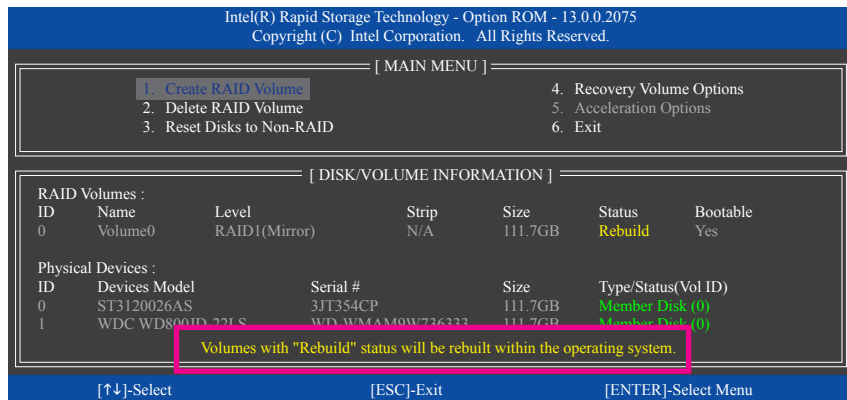
ステップ 1:

「Press <Ctrl> to enter Configuration Utility」というメッセージが表示されたら、<Ctrl> + <I> を押して RAID 構成ユーティリティに入ります。RAID 構成ユーティリティに入ると、次の画面が表示されます。



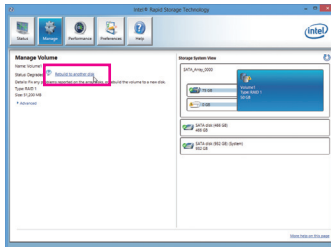
ステップ 2:

新しいハードドライブを選択して再構築するアレイに追加し、<Enter> を押します。オペレーティングシステムに入ると、自動再構築が実行されますという次の画面が表示されます。この段階で自動再構築を有効にしないと、オペレーティングシステムでアレイを手動で再構築する必要があります (詳細については、次のページを参照してください)。



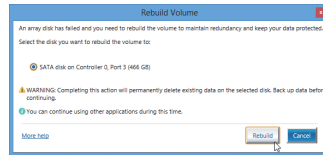
- ・オペレーティングシステムで再構築を実行する

オペレーティングシステムに入っている間に、チップセットドライバがマザーボードドライバディスクからインストールされていることを確認します。デスクトップから Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを起動します。



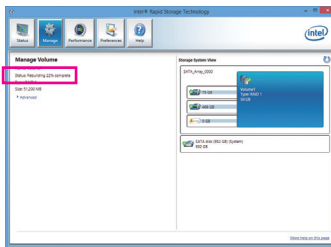
ステップ 1:

Manageメニューに移動し、Manage Volumeで Rebuild to another disk をクリックします。

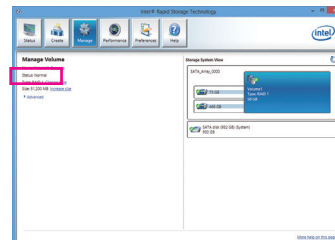


ステップ 2:

新しいドライブを選択してRAIDをリビルドし、Rebuild をクリックします。



画面左のStatus 項目にリビルド進捗状況が表示されます。



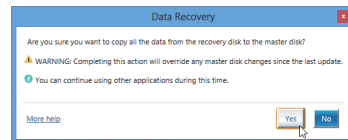
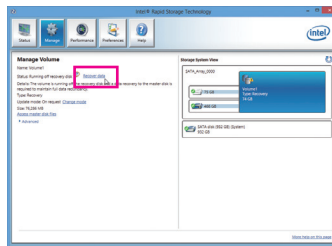
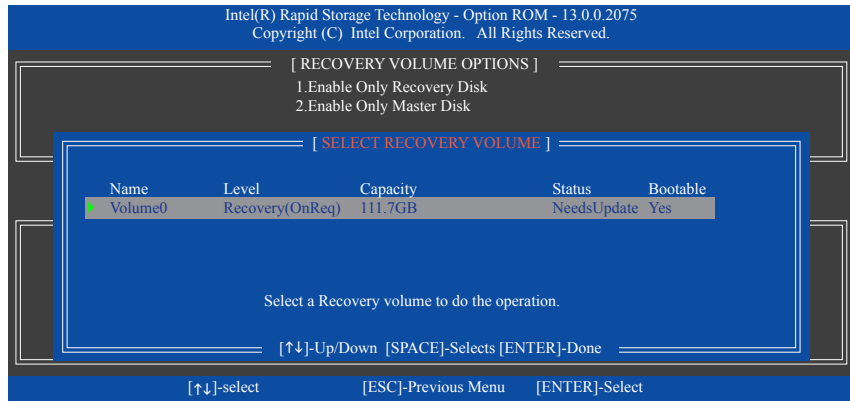
ステップ 3:

RAID 1ボリュームを再構築した後、Statusに Normalとして表示されます。

・ マスタドライブを以前の状態に復元する (リカバリボリュームの場合のみ)

要求に応じて更新するモードで2台のハードドライブをリカバリボリュームに設定すると、必要に応じてマスタドライブのデータを最後のバックアップ状態に復元できます。たとえば、マスタドライブがウイルスを検出すると、リカバリドライブのデータをマスタドライブに復元することができ
ます。
ステップ 1:

Intel® RAID構成ユーティリティのMAIN MENU で4. **Recovery Volume Option** を選択します。**RECOVERY VOLUMES OPTIONS** メニューで、**Enable Only Recovery Disk** を選択してオペレーティングシステムのリカバリドライブを表示します。オンスクリーンの指示に従って完了し、RAID構成ユーティリティを終了します。

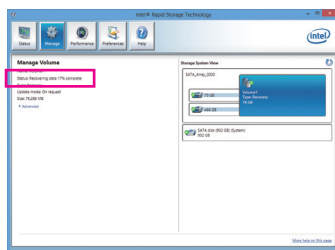


ステップ 3:

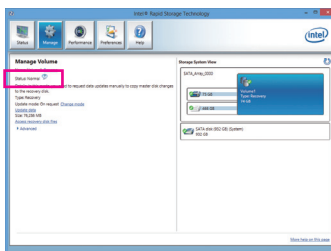
Yes をクリックして、データの復元を開始します。

ステップ 2:

Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティの **Manage** メニューに移動し、**Manage Volume** で **Recover data** をクリックします。



画面左の**Status** 項目にリビルド進捗状況が表示されます。



ステップ 4:

リカバリボリュームが完了した後、**Status** に **Normal** として表示されます。

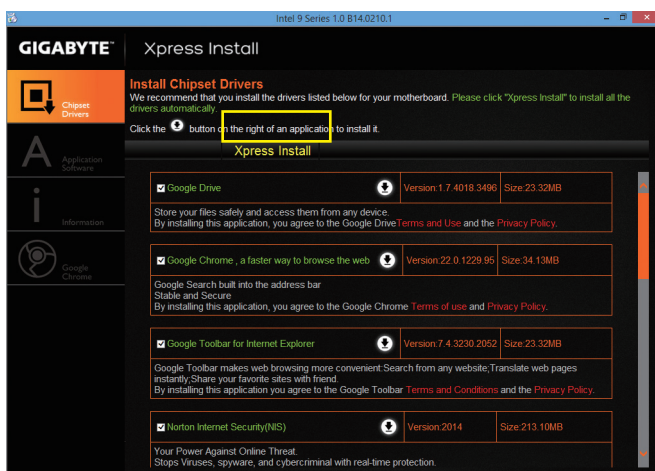
第4章 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、例として Windows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exe の実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

4-1 Chipset Drivers (チップセットドライバ)

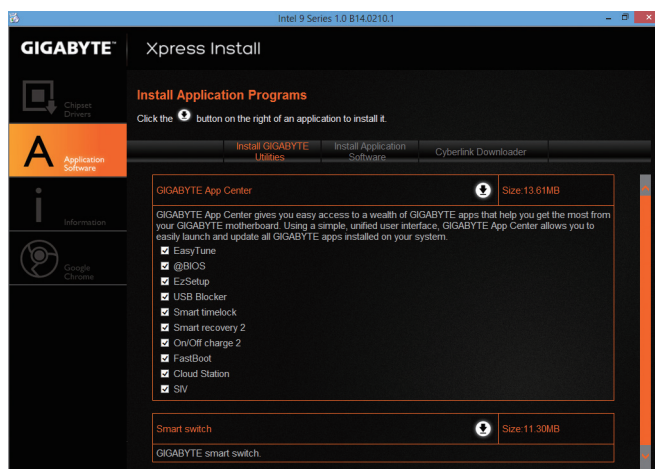
「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。Xpress Install ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、Found New Hardware Wizard)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響を及ぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、「Xpress Install」がその他のドライバを引き続きインストールします。

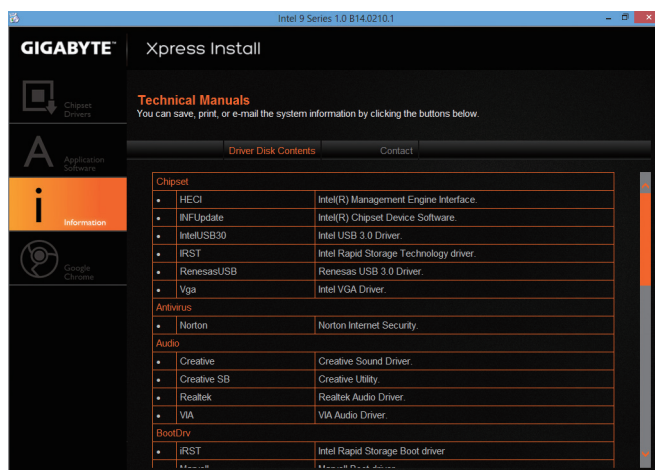
4-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)

このページでは、GIGABYTE が開発したアプリと一部の無償ソフトウェアが表示されます。インストールを開始するには、希望するアプリを選択し、Install  アイコンをクリックします。



4-3 Information (情報)

このページでは、ドライバディスク上のドライバの詳細情報を提供します。**Contact** ページでは、GIGABYTE 台湾本社の連絡先情報を提供しています。このページの URL をクリックすると、GIGABYTE ウェブサイトにリンクして本社や世界規模の支社の詳細情報を確認できます。



第 5 章 独自機能

5-1 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™ の 2つの独自のBIOS更新方法があります。GIGABYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。さらに、このマザーボードは DualBIOS™ 設計を採用して、物理 BIOS チップをさらに 1 つ追加することによって保護を強化しコンピュータの安全と安定性を高めています。

DualBIOS™とは？

デュアル BIOS をサポートするマザーボードには、メイン BIOS とバックアップ BIOS の 2 つの BIOS が搭載されています。通常、システムはメイン BIOS で作動します。ただし、メイン BIOS が破損または損傷すると、バックアップ BIOS が次のシステム起動を引き継ぎ、BIOS ファイルをメイン BIOS にコピーし、通常にシステム操作を確保します。システムの安全のために、ユーザーはバックアップ BIOS を手動で更新できないようになっています。

Q-Flash™とは？

Q-Flashがあれば、MS-DOSやWindowのようなオペレーティングシステムに入らずにBIOSシステムを更新できます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといった煩わしさから開放されます。

@BIOS™とは？

@BIOS により、Windows 環境に入っている間にシステム BIOS を更新することができます。@BIOS は一番近い @BIOS サーバーサイトから最新の @BIOS ファイルをダウンロードし、BIOS を更新します。

5-1-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しいBIOS (Z97XSOF.F1など) をお使いのUSBフラッシュドライブまたはUSBハードドライブに保存します。注：USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注：POST 中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS更新ファイルがRAID/AHCIモードのハードドライブまたは独立したSATAコントローラーに接続されたハードドライブに保存された場合、POSTの間に<End>キーを使用してQ-Flashにアクセスします。



BIOS の更新は危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。

B. BIOS を更新する

BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順は、BIOS ファイルをUSBフラッシュドライブに保存していることを前提としています。

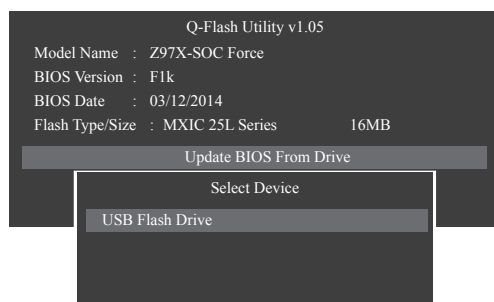
ステップ 1:

1. BIOS ファイルを含むUSBフラッシュドライブをコンピュータに挿入します。Q-Flash のメインメニューで、**Update BIOS from Drive** を選択します。



- **Save BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
- Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した SATA コントローラーに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **USB Flash Drive** を選択します。



3. BIOS 更新ファイルを選択します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

USBフラッシュドライブからBIOSファイルを読み込むシステムのプロセスが、画面に表示されます。「BIOSを更新しますか?」というメッセージが表示されたら、**Yes** を選択してBIOS更新を開始します。モニタには、更新プロセスが表示されます。



- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムがBIOSを更新しているとき、USBフラッシュドライブまたはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3:

更新処理が完了後、システムは再起動します。

ステップ 4:

POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。**Save & Exit** 画面で **Load Optimized Defaults** を選択し、<Enter>を押してBIOSデフォルトをロードします。BIOS が更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOS デフォルトを再ロードすることをお勧めします。



Yes を選択してBIOSデフォルトをロードします

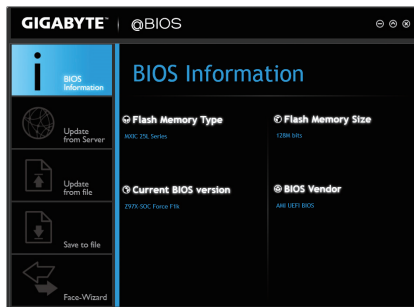
ステップ 5:

Save & Exit Setup を選択し、<Enter>を押します。Yes を選択してCMOSに設定を保存し、BIOSセットアップを終了します。システムの再起動後に手順が完了します。

5-1-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. Windows で、すべてのアプリケーションと TSR (メモリ常駐型) プログラムを閉じます。これにより、BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぎます。
2. BIOS がインターネット経由で更新される場合、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください (たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける)。そうしないと、BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
3. 不適切な BIOS 更新に起因する BIOS 損傷またはシステム障害は GIGABYTE 製品の保証の対象外です。



B. @BIOSを使用する

1. インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する：



Update from Server をクリックし、一番近い @ BIOS サーバーを選択して、お使いのマザーボードモデルに一致する BIOS ファイルをダウンロードします。オンスクリーンの指示に従って完了してください。



マザーボードの BIOS 更新ファイルが @BIOS サーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTE の Web サイトから BIOS 更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する」の指示に従ってください。

2. インターネット更新機能を使用せずに BIOS を更新する：



Update from File をクリックし、インターネットからまたは他のソースを通して取得した BIOS 更新ファイルの保存場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

3. 現在の BIOS をファイルに保存：



Save to File をクリックして、現在の BIOS ファイルを保存します。

4. 起動ロゴの変更



フェイスウィザードで **Upload new image** をクリックすると、起動ロゴを自分独自の写真に変更して個人用起動画面を作成することができます。現在使用中の起動ロゴを保存するには **Backup current image** をクリックします。



サポートする画像形式は jpg、bmp、および gif などです。

C. BIOS を更新した後

BIOS を更新した後、システムを再起動してください。



- ・ 更新する BIOS ファイルがお使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。間違った BIOS ファイルで BIOS を更新すると、システムは起動しません。
- ・ BIOS 更新処理時にシステムの電源をオフにしたり、電源を抜かないでください。さもないと BIOS が破損し、システムが起動しない恐れがあります。

5-2 APP Center

GIGABYTE App Center により、豊富な GIGABYTE アプリにアクセスしやすくなり、GIGABYTE マザーボードを最大限利用できるようになります^(注)。シンプルで統一されたインターフェイスを用いた GIGABYTE App Center により、お使いのシステムにインストールされたすべての GIGABYTE アプリを簡単に起動し、オンラインで関連アップデートを確認するとともに、アプリ、ドライバ、および BIOS をダウンロードできます。

APP Center の実行

マザーボードのドライバディスクを挿入します。自動実行画面で、**Application Software\Install GIGABYTE Utilities** に移動して GIGABYTE App Center と選択したアプリをインストールします。インストールの完了後、コンピュータを再起動します。デスクトップモードで、通知画面の App Center アイコンをクリックして App Center ユーティリティを起動します(図 1)。メインメニューでは、実行するアプリを選択したり、**Live Update** をクリックしてアプリをオンラインで更新できます。

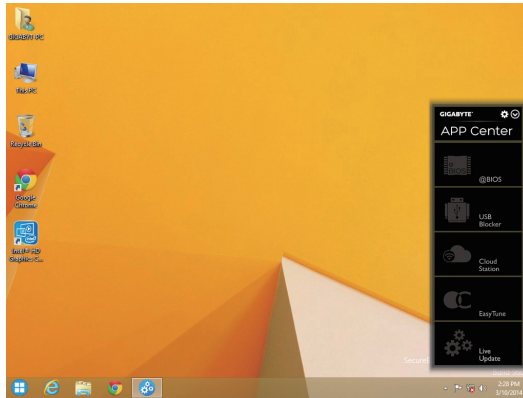


図 1

App Center が閉じている場合は、Apps メニューで App Center アイコンをクリックすると再起動できます(図 2)。

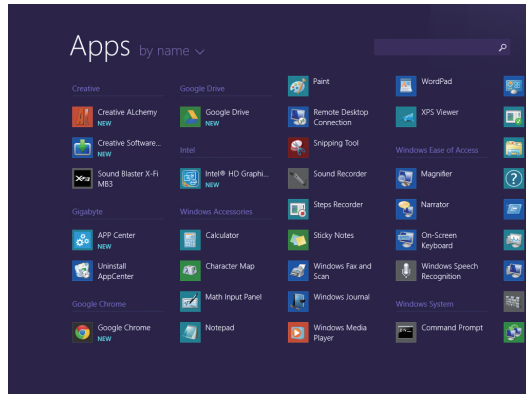


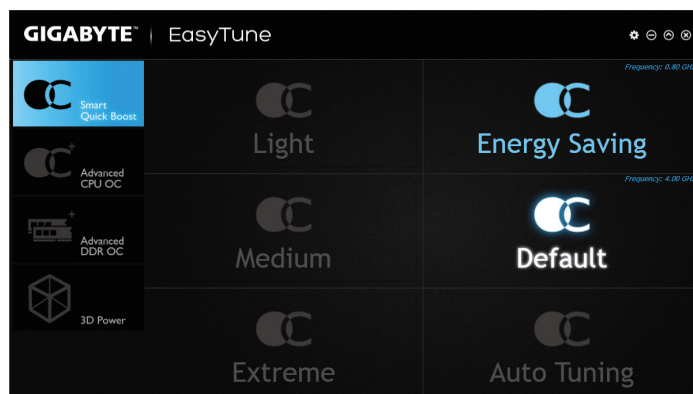
図 2

(注) App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。

5-2-1 EasyTune

GIGABYTE の EasyTune はシンプルで使いやすいインターフェイスで、Windows 環境でシステム設定の微調整やオーバークロック/過電圧が行えます。

EasyTune のインターフェイス



タブ情報

タブ	説明
	Smart Quick Boost タブでは、希望するシステムパフォーマンスを達成できるように、各種レベルの CPU 周波数を備えています。変更を行ったら、変更を有効にするために必ずシステムを再起動してください。
	Advanced CPU OC タブでは、CPU ベースクロック、周波数、電圧、統合されたグラフィック周波数を設定できます。現在の設定をプロファイルに保存できます。最大 2 つのプロファイルを作成できます。
	Advanced DDR OC タブでは、メモリクロックを設定できます。
	3D Power タブでは、電力位相、電圧、周波数の設定を変更できます。



EasyTune で利用可能な機能は、マザーボードモデルによって異なります。淡色表示になったエリアは、アイテムが設定できないか、機能のサポートされていないことを示しています。

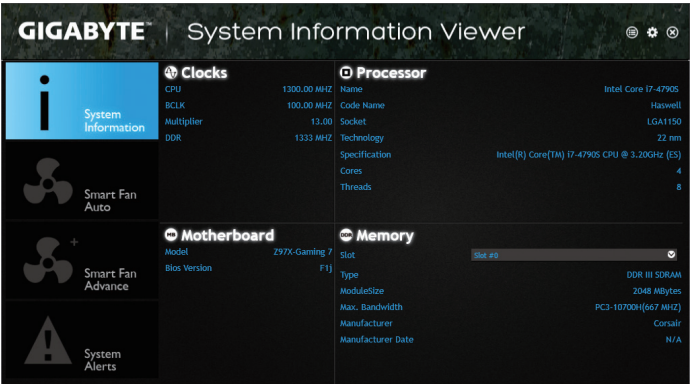


オーバークロック/過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック/過電圧を実行する前に、EasyTune の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

5-2-2 System Information Viewer

GIGABYTE System Information Viewerでは、オペレーティングシステムでファン速度を監視し、調節できます。常時システム状態を表示するために、デスクトップ上にハードウェア監視情報を表示することもできます。

System Information Viewerのインターフェイス



タブ情報

タブ	説明
	System Information タブでは、取り付けられた CPU、マザーボード、および BIOS バージョンに関する情報が得られます。
	Smart Fan Auto タブでは、スマートファンモードを指定します。
	Smart Fan Advance タブでは、スマートファンの速度を調整できます。ファンは、システム温度によって異なる速度で動作します。 Smart Fan オプションを使用すると、ファンの作業負荷をシステム温度によって調整したり、 RPM Fixed Mode オプションを使用してファン速度を固定することができます。 Calibrate ボタンをクリックすると、較正後のファンの作業負荷全体に関するファン速度が表示されます。 Reset ボタンを使用すると、ファン設定を前回保存時の値に戻すことができます。
	System Alerts タブでは、ハードウェアの温度、電圧およびファン速度を監視するとともに、温度/ファン速度アラームを設定します。



速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。

5-2-3 EZ Setup

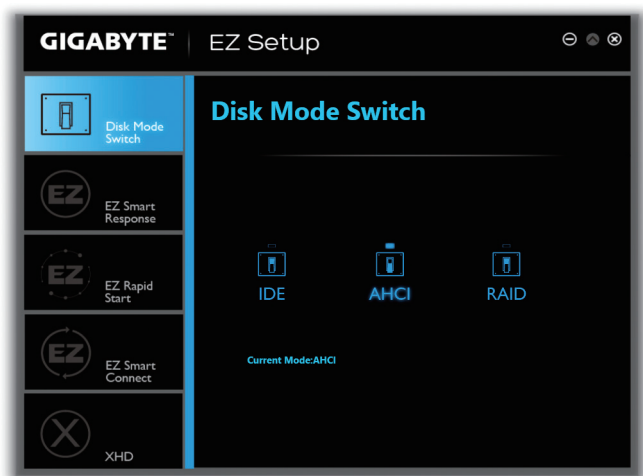
GIGABYTE EZ Setup ユーティリティには、非常に簡略化されたインストールおよび構成手順を提供する次の「EZ」セットアップアプリケーションが含まれています。Disk Mode Switch、EZ Smart Response、EZ Rapid Start、EZ Smart Connect、およびXHD。

Disk Mode Switch

お使いのハードドライブをオペレーティングシステムにインストールした後もハードドライブの操作モードを切り換えることができます。サポートする操作モードはIDE、AHCI、およびRAIDなどです。ディスクモードを選択し、選択後にコンピュータを再起動します。



- ネイティブのUEFI モードはサポートしていません。
- 必ずディスクモードを切り換えてから Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティを再インストールしてください。



EZ Smart Response

A. システム要件

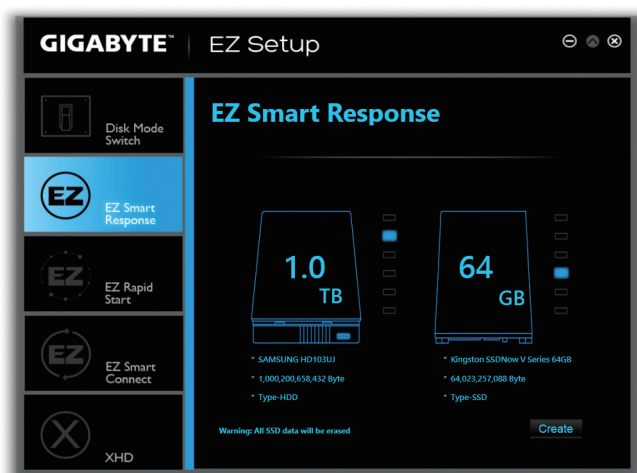
1. この機能をサポートする Intel® チップセットベースのマザーボード
2. Intel® コアシリーズプロセッサ
3. RAID モードに設定された Intel® SATA コントローラー
4. Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティがインストール済み (注 1)
5. 従来の SATA ディスクおよび SSD (注 2)
6. Windows 7 SP1/Windows 8/Windows 8.1 (注 3)



Smart Response Technology を設定する前にオペレーティングシステムをすでにインストールしている場合、RAID モードを有効にすると、SSD の元のデータがすべて失われます (注 4)。Smart Response Technology を有効にする前に、ハードディスクのバックアップを取るようにお勧めします。

B. EZ Smart Response の使用

EZ Smart Response を選択し、Create をクリックします。
この機能を無効にするには Delete をクリックします。



- (注 1) 開始する前に、Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティ (バージョン 11.5 以上) がインストールされていることを確認してください。
- (注 2) SSD は、ハードディスクのキャッシュとして動作します。最大のキャッシュメモリサイズは 64 GB です。64 GB より大きな容量の SSD を使用する場合、64 GB を超えるスペースはデータの保存用に使用することができます。
- (注 3) オペレーティングシステムは SATA ディスクにインストールする必要があります。
- (注 4) BIOS 設定にかかわらず IDE または AHCI モードになります。システムは強制的に RAID モードになります。

EZ Rapid Start

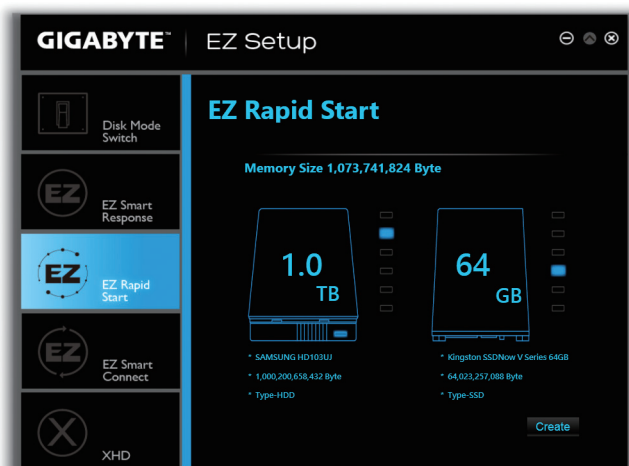
A. システム要件

1. BIOS 設定における Intel Rapid Start Technology の有効化
2. システムメモリの合計よりサイズが大きい SSD
3. Windows 7 SP1/Windows 8/Windows 8.1
4. AHCI/RAID モードに対応 (RAIDアレイのメンバーとして SSD が割り当てられている場合はIntel® Rapid Start 格納パーティションのセットアップに使用することができませんのでご注意ください。) IDE モードは非対応^(注)

B. EZ Rapid Start の使用

EZ Rapid Startを選択し、**Create**をクリックします。続いて Intel® Rapid Start Technology ユーティリティをインストールし、コンピュータを再起動して完了します。

この機能を無効にするには **Delete** をクリックします。



- 既定の圧縮スペースは、システムのメモリサイズ + 2 GBです。例えば、システムのメモリサイズが8 GBの場合、既定の圧縮スペースは8 GB + 2 GBです。よってSSDの容量は10 GB減少します。EZ Rapid Startを無効にした場合、減少した10 GBはSSDに戻ります。
- システムメモリをアップグレードする場合、まずEZ Rapid Startを無効にしてから、正常動作を保証するため再インストールします。

(注) マザーボードのチップセットが RAID をサポートしている場合、EZ Rapid Start は Intel® SATA コントローラーを強制的に RAID モードにします。サポートしていない場合、Intel® SATA コントローラーは強制的に AHCI モードになります。

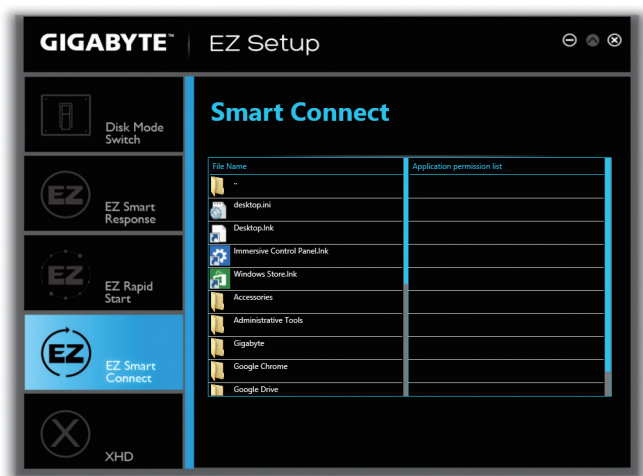
EZ Smart Connect

A. システム要件

1. BIOS 設定における Intel® Smart Connect Technology の有効化
2. Windows 7 SP1/Windows 8/Windows 8.1
3. Intel® Smart Connect Technology ユーティリティがインストール済み
4. 正常動作しているネットワーク接続
5. ホワイトリストに追加されたプログラムをオンにする必要があります (注)

B. EZ Smart Connect の使用

EZ Smart Connect の選択。File Nameで、Smart Connect によって自動更新するアプリを選択します。アプリをダブルクリックして、Application permission listに追加します。(ダブルクリックして前のディレクトリに戻ります。)



(注) この機能は、Outlook®、Windows Live™ Mail、および Seesmic®などのデータを取得するため自動的にインターネットと協働するよう設計されたプログラムに最適です。

XHD

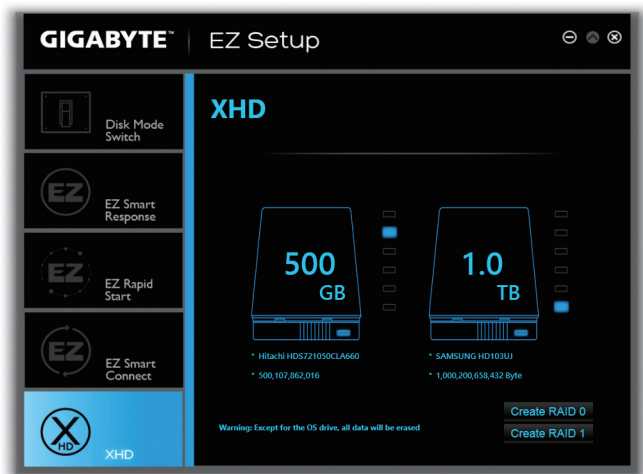
GIGABYTE XHD^(注1)により、新しい SATA ドライブを追加すると RAID 0 または RAID 1 用の RAID 対応システムを素早く構成できます。ボタンを 1 回クリックするだけで、XHD は複雑で時間のかかる構成をせずにハードドライブの読み込み/書き込みパフォーマンスを拡張することができます。

A. システム要件

1. RAID をサポートする Intel® チップセットマザーボード
2. RAID モードに設定された Intel® SATA コントローラー
3. Intel® Rapid Storage Technology ユーティリティがインストール済み
4. Windows 7 SP1/Windows 8/Windows 8.1
5. Intel® SATA コントローラードライバがインストール済み

B. XHD の使用

XHD を選択し、必要に応じて **Create RAID 0** または **Create RAID 1** をクリックします^(注2)。



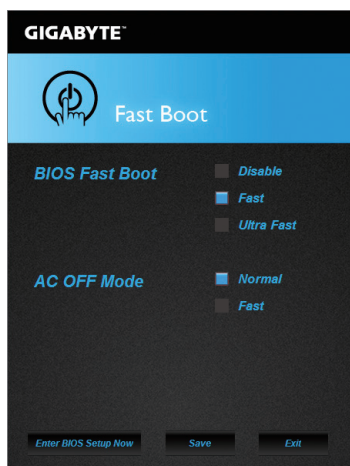
(注1) XHD ユーティリティは、Intel® チップセットによって制御される SATA コネクタのみをサポートします。

(注2) オペレーティングシステムドライブを除き、他のハードドライブにあるデータがすべて削除されます。XHD ユーティリティを使用する前にデータをバックアップしてください。

5-2-4 Fast Boot

シンプルな GIGABYTE Fast Boot^(注1) インターフェイスを介して、オペレーティングシステムにある Fast Boot 設定または Next Boot After AC Power Loss 設定を有効にしたり、変更することができます。

Fast Boot インターフェイス



Fast Boot を使用する

- **BIOS Fast Boot:**

このオプションは、BIOS のセットアップにある **Fast Boot** オプション^(注2) と同じです。OS の起動時間を短縮する高速ブート機能を有効または無効にすることができます。

- **AC オフモード:**

このオプションは、BIOS セットアップにある **Next Boot After AC Power Loss** オプション^(注2) と同じです。AC 電源喪失が返されたときにシステム起動モードを選択できるようになります。(このモードは、**BIOS Fast Boot** の設定が **Fast** または **Ultra Fast** のときのみ設定できます。)

設定を行ったら、**Save** をクリックして保存し、**Exit** をクリックします。設定は次回起動時に有効になります。**Enter BIOS Setup Now** ボタンをクリックすると、システムが再起動し、ただちに BIOS セットアップに入ります。

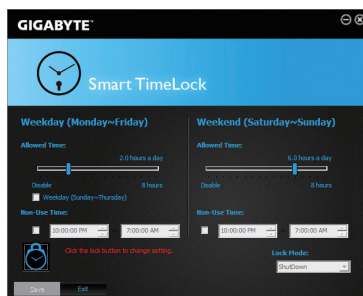
(注1) この機能は Windows 8.1/8 でのみ対応しています。

(注2) この機能の詳細については、2 章「BIOS の機能」を参照してください。

5-2-5 Smart TimeLock

GIGABYTE Smart TimeLockでは、単純な規則とオプションでコンピュータまたはインターネットの使用時間を効率的に管理できます。

Smart TimeLockインターフェイス



Smart TimeLockの使用

左角のLockアイコンをクリックして、パスワードを入力してください。(注)週日または週末にコンピュータの許可される/許可されない使用時間を設定します。右下隅にある**Lock Mode**では、指定した期間中コンピュータの電源を切るか、インターネット接続のみを閉じるかを選択できます。**Save** をクリックして設定を保存し、**Exit** をクリックして終了します。

デフォルトのシャットダウン時間の15分と1分前にリマインダーが表示されます。リマインダーが表示されたら、パスワードを入力して使用時間を伸ばしたり、**Cancel** をクリックしてリマインダーを閉じることができます。リマインダーに対して**Cancel** を選択すると、シャットダウン時間に使用時間を伸ばしたり、コンピュータを直ちにシャットダウンするには、パスワードを入力するように要求されます。

(注) システムのBIOSセットアッププログラムで、システムが他のユーザーに変更されないようにユーザーパスワードを設定することができます。

5-2-6 Smart Recovery 2

Smart Recovery 2により、画像ファイルとしてパーティションを1時間ごとにバックアップできます。これらの画像を使用して、必要なときにシステムやファイルを復元できます。



Smart Recovery 2メインメニュー：

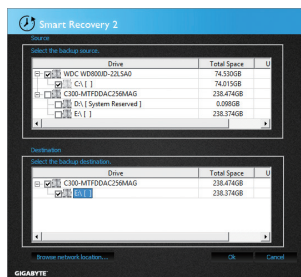
ボタン	説明
Settings	ソースと宛先パーティションを選択します
Backup Now	今すぐ、バックアップを実行できます
File Recovery...	バックアップ画像からファイルを回復できます
System Recovery...	バックアップ画像からシステムを回復できます



- Smart Recovery 2はNTFSファイルシステムのみをサポートします。
- Smart Recovery 2を初めて使用するとき、宛先パーティション**Settings**を選択する必要があります。
- Backup Now ボタンは10分間Windowsにログインした後のみ利用可能です。
- **Always run on next reboot** チェックボックスを選択すると、システム再起動後に Smart Recovery2 が自動的に有効になります。

バックアップを作成する：

メインメニューで**Settings** ボタンをクリックします。**Settings** ダイアログボックスで、ソースパーティションと宛先パーティションを選択し、**OK** をクリックします。最初のバックアップは10分後に開始され、定期的バックアップが1時間ごとに行われます。注：既定値で、システムドライブのすべてのパーティションはバックアップソースとして選択されます。バックアップ宛先をバックアップソースと同じパーティションに置くことはできません。

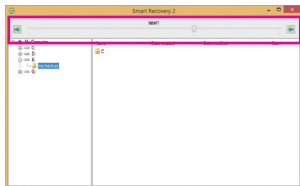


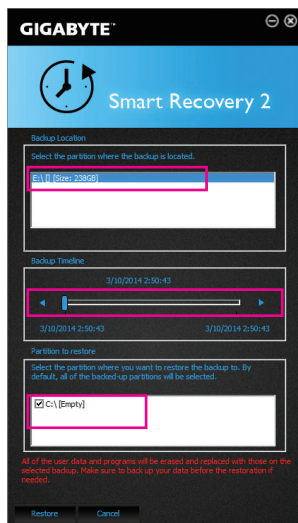
バックアップをネットワークの場所に保存する：

バックアップをネットワークの場所に保存するには、**Browse network location**を選択します。必ずお使いのコンピュータとバックアップを保存するコンピュータが同じドメインにあるようにします。バックアップを格納し、ユーザー名とパスワードを入力するネットワークの場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

ファイルを回復する：

メインメニューで**File Recovery** ボタンをクリックします。バックアップ表示されたウィンドウ上部のタイムスライダーを使用して前のバックアップ時間を選択します。右ペインには、バックアップ宛先のバックアップされたパーティションが(**My Backup** フォルダに) 表示されます。希望のファイルを閲覧してコピーします。





Smart Recovery 2でシステムを回復します：

ステップ：

1. メインメニューで **System Recovery** ボタンをクリックします。
2. バックアップを保存する場所を選択します。
3. 時間スライダを使用してタイムポイントを選択します。
4. 選択したタイムポイントで作成したパーティションバックアップを選択し、**Restore** をクリックします。
5. システムを再起動して、今すぐ復元を進めるかまたは後で復元を進めるかを確認します。「はい」と答えると、システムは再起動してWindows回復環境に戻ります。オンスクリーンの指示に従ってシステムを回復します。

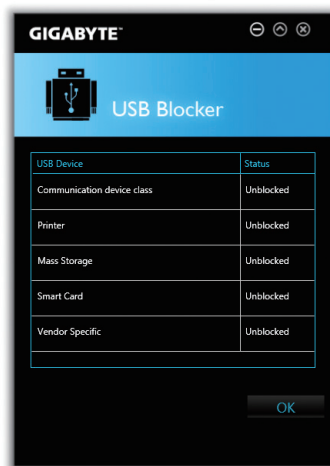


ファイルとプログラムがすべて削除され、選択したバックアップに置き換えられます。必要に応じて、復元前にデータのコピーを必ず作成してください。

5-2-7 USB Blocker

GIGABYTE USB Blocker は、お使いの PC 上で特定の USB 機器タイプをブロックできるようにする使いやすいインターフェイスを提供します。ブロックされたUSB機器はオペレーティングシステムによって無視されます。

USB Blocker インターフェイス



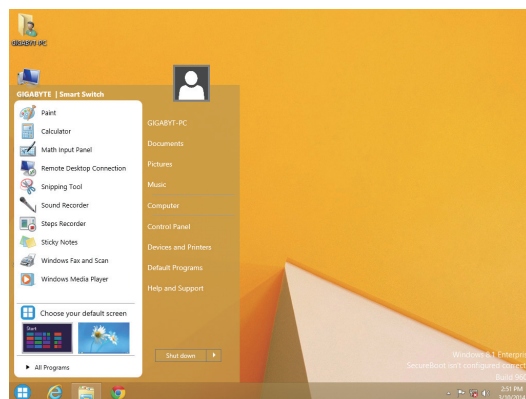
USB Blocker の使用

ブロックまたはブロック解除したい USB 機器のクラスを選択します。**Blocked** または **Unblocked** の状態に変更するには左ダブルクリックし、**OK** をクリックします。続いてパスワードを入力し、**OK** をクリックして完了します。

5-2-8 Smart Switch

GIGABYTE Smart Switch は、従来型の Windows スタートメニューを備えています。これにより、よく使うアプリに簡単にアクセスできます。また、Windows に入った後デフォルトの画面を表示するよう選択することもできます。

Smart Switch インターフェイス



Smart Switch の使用

Smart Switch をインストールすると、Smart Switch アイコン  が従来型の Windows デスクトップ画面の左下隅に表示されます。アイコンを左クリックすると、上に画面が表示されて、Windows に入った後のデフォルト画面を設定することができます。

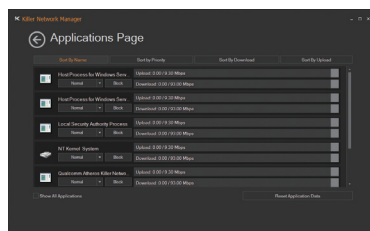
第 6 章 付録

6-1 Qualcomm® Atheros Killer Network Manager

Killer Network Managerでは、ネットワーク接続ステータスとインターネットバンド幅を表示して、ネットワーク設定を設定できます。LANドライバのインストール後、Apps で Qualcomm® Atheros Killer Network Manager にアクセスするか、または通知領域で  アイコンを右クリックできます。

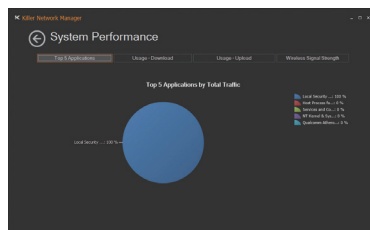
Applications Page

Applications ページ設定画面で、インターネットへのアクセスでバンド幅を使用するアプリケーションやオンラインゲームの優先順位を設定できます。優先順位を変更するには、アプリケーション/ゲームのアイコンの下にあるドロップダウンメニューを使用して、優先順位のレベルを選択します。同様に、各アプリケーションのアップロードおよびダウンロードバンド幅も変更できます。右端のグレーのバーをドラッグして帯域幅を変更することができます。



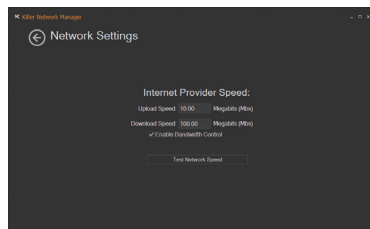
System Performance

このページは、アプリケーションとシステム情報を表示します。



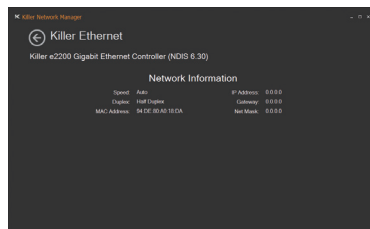
Network Settings

このページでは、有線ネットワーク接続とインターネットの提供速度を設定できます。



Killer Ethernet

このページにはネットワーク接続の現在のステータスがチェックされます。



6-2 オーディオ入力および出力を設定

6-2-1 2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオを設定する

マザーボードでは、背面パネルに 2/4/5.1/7.1 チャンネル^(注) オーディオをサポートするオーディオジャックが 6 つ装備されています。右の図は、デフォルトのオーディオジャック割り当てを示しています。

統合された HD (ハイディフィニション) オーディオにジャック再タスキング機能が搭載されているため、ユーザーはオーディオドライバを通して各ジャックの機能を変更することができます。(各ジャックでサポートする機能は、ハードウェアの仕様により異なります)。



- ・マイクを取り付けるには、マイクをマイクインまたはラインインに接続し、マイク機能を手動で設定します。
- ・オーディオ信号は、前面と背面パネルのオーディオ接続の両方に同時に流れています。バックパネルのオーディオを消音にする場合 (HD フロントパネルのオーディオモジュールを使用しているときのみサポートされます)、次ページの指示を参照してください。

ハイディフィニションオーディオ (HD Audio)

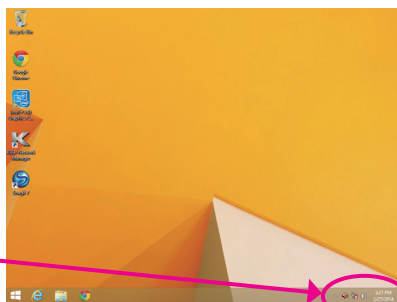
HD オーディオには、高品質デジタルアナログコンバータ (DAC) が複数含まれています。HD Audio はマルチストリーミング機能を採用して、複数のオーディオストリーム (インおよびアウト) を同時に処理しています。たとえば、MP3 ミュージックを聴いたり、インターネットチャットを行ったり、インターネットで通話を行ったりといった操作を同時に実行できます。

A. スピーカーを設定する

(以下の指示は、サンプルとして Windows 8.1 オペレーティングシステムを使用します。)

ステップ 1:

オーディオドライバをインストール後、コンピューターを再起動してください。続いて、Windows デスクトップモードに切り替えます。HD Audio Manager アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、HD Audio Manager にアクセスします。



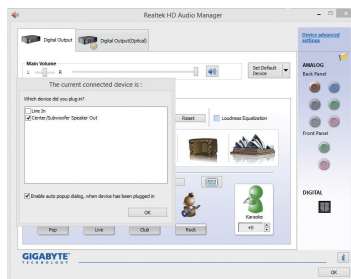
(注) 2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定:

マルチチャンネルスピーカー設定については、次を参照してください。

- ・ 2 チャンネルオーディオ: ヘッドフォンまたはラインアウト。
- ・ 4 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウトとリアスピーカーアウト。
- ・ 5.1 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウトとセンター/サブウーファースピーカーアウト。
- ・ 7.1 チャンネルオーディオ: フロントスピーカーアウト、リアスピーカーアウト、センター/サブウーファースピーカーアウトとサイドスピーカーアウト。

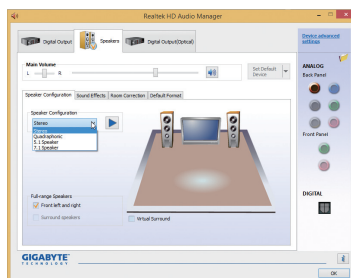
ステップ 2:

オーディオデバイスをオーディオジャックに接続します。**The current connected device is** ダイアログボックスが表示されます。接続するタイプに従って、デバイスを選択します。**OK** をクリックします。



ステップ 3:

Speakers スクリーンで **Speaker Configuration** タブをクリックします。**Speaker Configuration** リストで、セットアップする予定のスピーカー構成のタイプに従い **Stereo**、**Quadraphonic**、**5.1 Speaker**、または **7.1 Speaker** を選択します。スピーカーセットアップが完了しました。

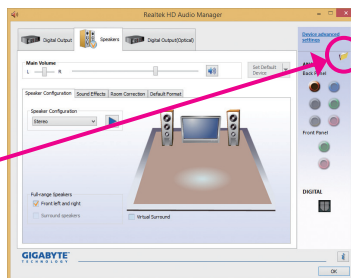
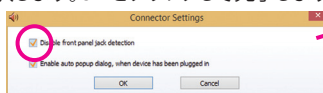


B. サウンド効果を設定する

Sound Effects タブでオーディオ環境を構成することができます。

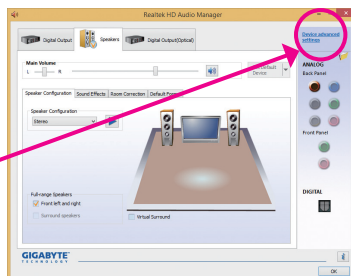
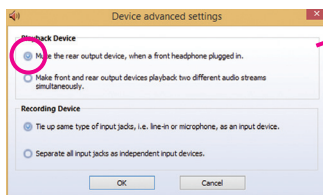
C. AC'97 フロントパネルオーディオモジュールを有効にする

PC ケースに AC'97 フロントパネルオーディオモジュールが付いている場合、AC'97 機能をアクティブにし、**Speaker Configuration** タブのツールアイコンをクリックします。**Connector Settings** ダイアログボックスで、**Disable front panel jack detection** チェックボックスを選択します。**OK** をクリックして完了します。



D. バックパネルオーディオを消音する (HDオーディオのみ)

Speaker Configuration タブの右上で **Device advanced settings** をクリックし、**Device advanced settings** ダイアログボックスを開きます。**Mute the rear output device, when a front headphone plugged in** チェックボックスを選択します。**OK** をクリックして完了します。

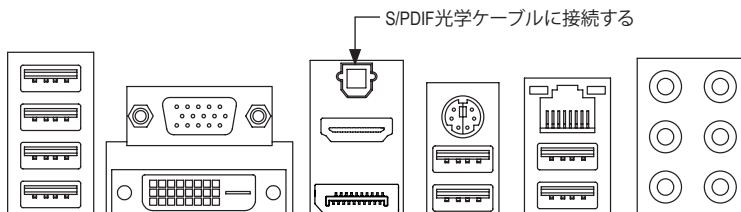


6-2-2 S/PDIF アウトを構成する

S/PDIF アウト ジャックはデコード用にオーディオ信号を外部デコーダに転送し、最高の音質を得ることができます。

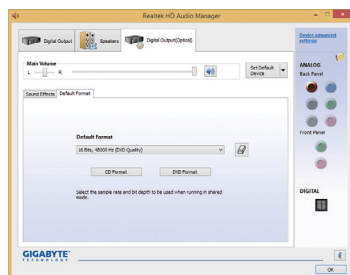
1.S/PDIF アウトケーブルを接続する:

S/PDIF光学ケーブルを以下に示すように対応するS/PDIFアウトコネクタと外部デコーダに接続し、S/PDIFデジタルオーディオ信号を転送します。



2.S/PDIF アウトを構成する:

Digital Output(Optical)でスクリーンで^(注)、**Default Format** タブをクリックし、サンプルレートとビット深度を選択します。**OK** をクリックして完了します。

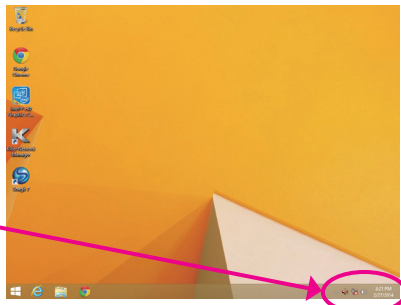


(注) デジタルオーディオ出力で背面パネルにS/PDIFアウトコネクタを使用している場合、詳細な設定を行うには**Digital Output(Optical)** 画面を入力します、またはデジタルオーディオ出力で内部S/PDIFアウトコネクタ(SPDIF_0)を使用している場合、デジタル出力画面を入力します。

6-2-3 マイク録音を構成する

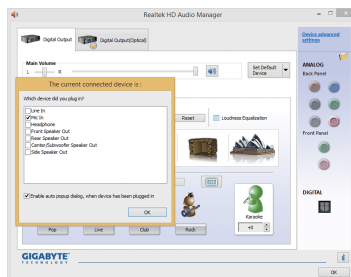
ステップ 1:

Windows デスクトップモードに切り替えます。**HD Audio Manager** アイコン  が通知領域に表示されます。アイコンをクリックして、**HD Audio Manager** にアクセスします。



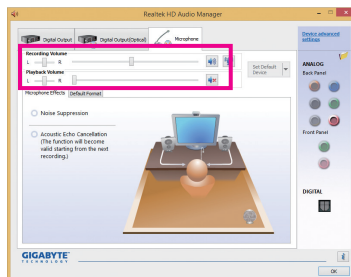
ステップ 2:

マイクをバックパネルの マイクイン (ピンク)、またはフロントパネルの マイクイン (ピンク) に接続します。マイク機能用にジャックを構成します。注: フロントパネルとバックパネルのマイク機能は、同時に使用できません。



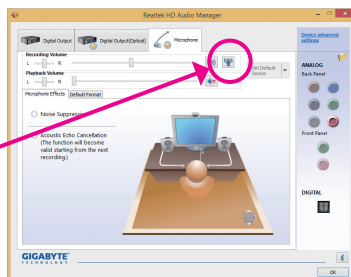
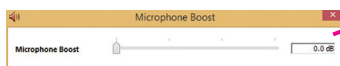
ステップ 3:

Microphone 画面に移動します。録音ボリュームを消音にしないでください。サウンドの録音ができなくなります。録音プロセス中に録音されているサウンドを聞くには、再生ボリュームを消音にしないでください。中間レベルの音量に設定することをお勧めします。



ステップ 4:

マイク用の録音と再生ボリュームを上げるには、**Recording Volume** スライドの右の **Microphone Boost** アイコン  をクリックし、マイクのブーストレベルを設定します。



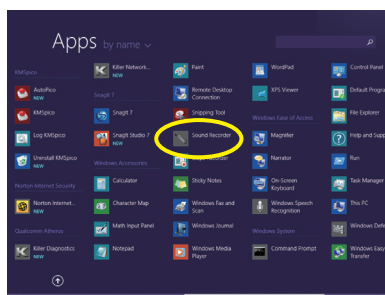
ステップ 5:

Sound Recorder を開くには、マウスカーソルを画面左下隅に移動させ、スタート  アイコンをクリックして **Start** 画面に切り替えます (またはキーボードの Windows ボタンを押します)。画面左下隅の  アイコンをクリックして Apps 画面にアクセスします。



ステップ 6:

音声録音するには、画面上で **Sound Recorder** をクリックします。

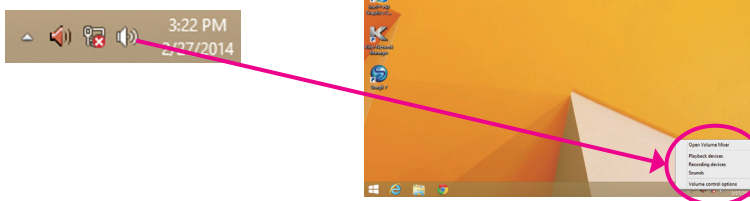


* Stereo Mix (ステレオミックス) を有効にする

HD Audio Managerで使用する録音デバイスが表示されない場合、以下のステップを参照してください。次のステップではStereo Mix(ステレオミックス)を有効にする方法を説明しています(コンピュータからサウンドを録音するときが必要となります)。

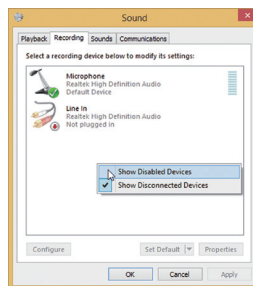
ステップ 1:

Windows デスクトップモードに切り替えます。通知領域でアイコン  を確認し、このアイコンを右クリックします。**Recording Devices** を選択します。



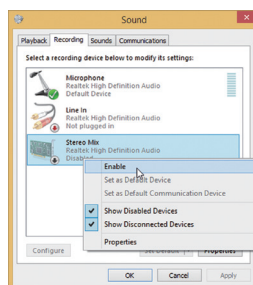
ステップ 2:

Recording タブで、空の領域を右クリックし、**Show Disabled Devices** を選択します。



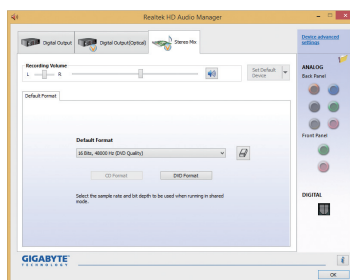
ステップ 3:

Stereo Mix が表示されたら、項目を右クリックし **Enable** を選択します。デフォルトのデバイスとしてこれを設定します。

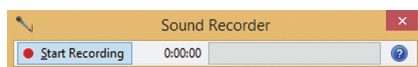


ステップ 4:

HD Audio Manager にアクセスして **Stereo Mix** を構成し、**Sound Recorder** を使用してサウンドを録音することができます。



6-2-4 Sound Recorder を使用する



A. サウンドを録音する

1. コンピュータにサウンド入力デバイス (マイク、など) を接続していることを確認します。
2. オーディオを録音するには、**Start Recording** ボタン  **Start Recording** をクリックします。
3. オーディオ録音を停止するには、**Stop Recording** ボタン  **Stop Recording** をクリックします。

完了したら、録音したオーディオファイルを必ず保存してください。

B. 録音したサウンドを再生する

オーディオファイル形式をサポートするデジタルメディアプレーヤープログラムで録音を再生することができます。

6-3 トラブルシューティング

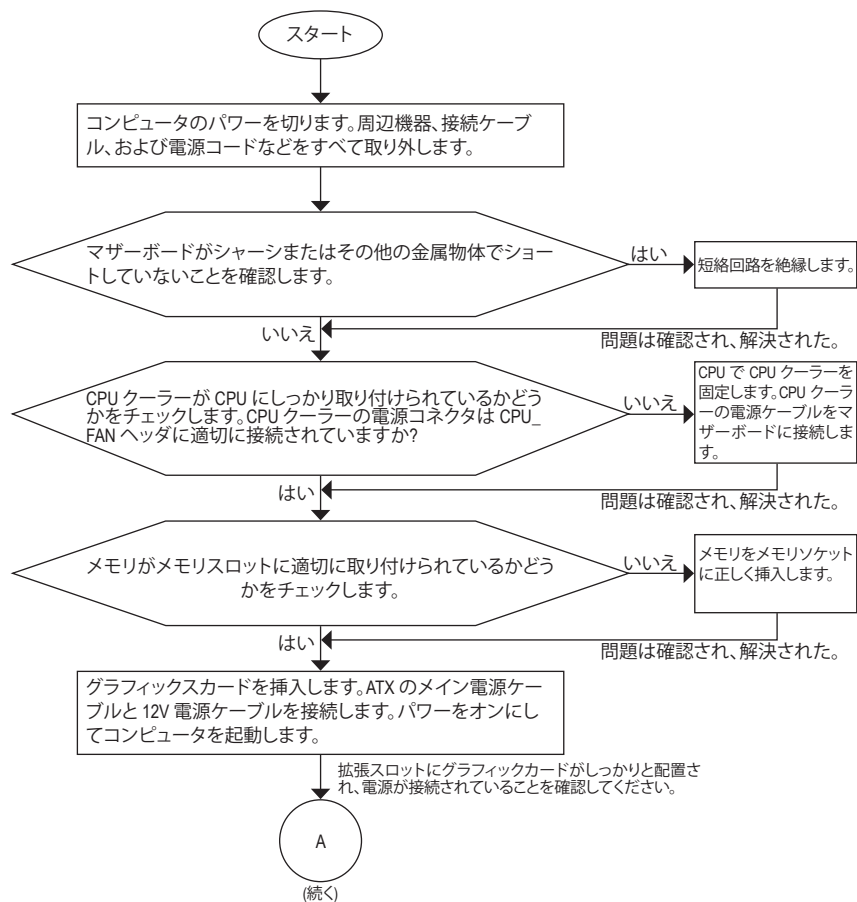
6-3-1 良くある質問

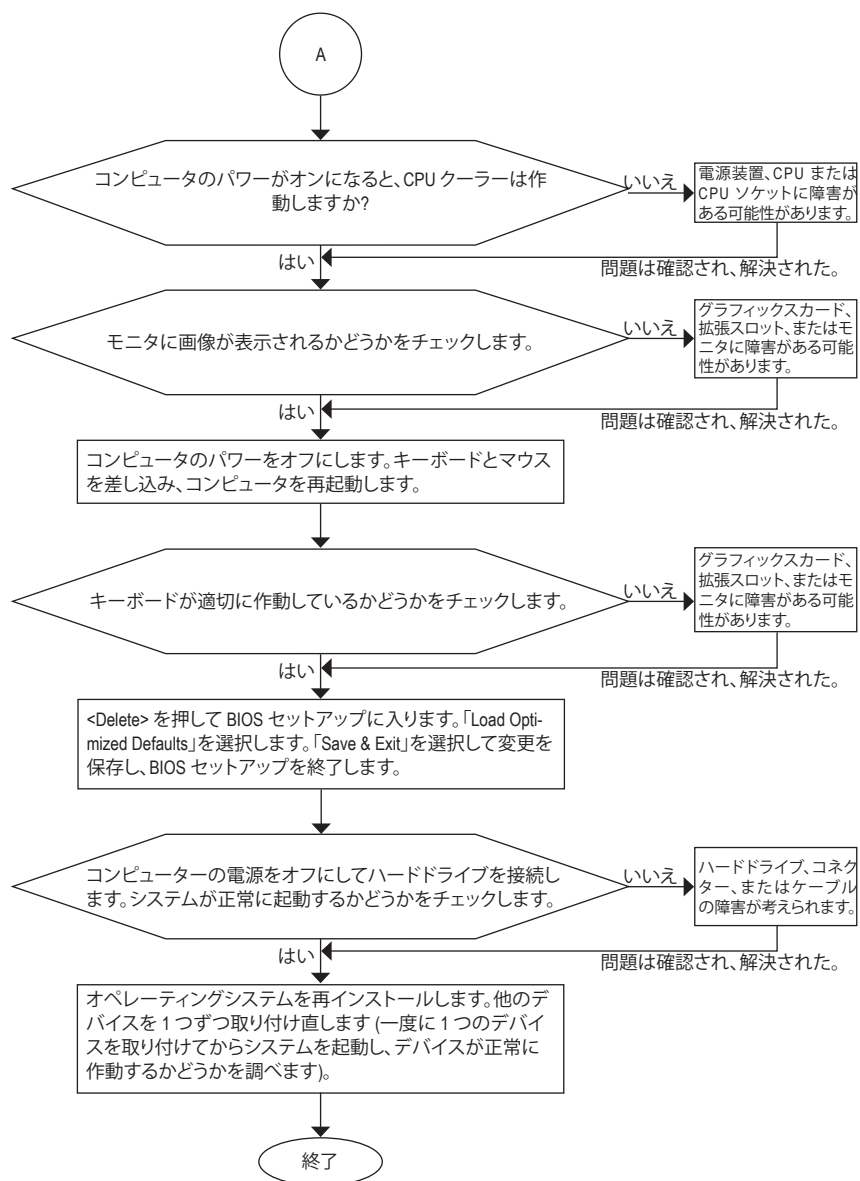
マザーボードに関する FAQ の詳細をお読みになるには、GIGABYTE の Web サイトの **Support & Downloads\FAQ** ページにアクセスしてください。

- Q: なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?
- A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。
- Q: CMOS 値をクリアするには?
- A: クリアCMOSボタンの付いたマザーボードの場合、このボタンを押してCMOS値をクリアします(これを実行する前に、コンピュータの電源をオフにし電源コードを抜いてください)。クリアCMOSジャンパの付いたマザーボードの場合、第1章のCLR_CMOSジャンパの指示を参照し、CMOS値をクリアします。ボードにこのジャンパが付いてない場合、第1章のマザーボードバッテリーに関する説明を参照してください。バッテリーホルダからバッテリーを一時的に取り外してCMOSへの電力供給を止めると、約1分後にCMOS値がクリアされます。
- Q: なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?
- A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源/アンプでスピーカーを試してください。

6-3-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。





上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または販売店に相談してください。または、**Support & Downloads\Technical Support** ページに移動し、質問を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご回答いたします。

6-4 LED コードのデバッグ

通常起動

コード	説明
10	PEI コアが開始されます。
11	プレメモリ CPU の初期化が開始されます。
12~14	予約済みです。
15	プレメモリノースブリッジの初期化が開始されます。
16~18	予約済みです。
19	プレメモリサウスブリッジの初期化が開始されます。
1A~2A	予約済みです。
2B~2F	メモリーの初期化。
31	メモリがインストールされています。
32~36	CPU PEI の初期化。
37~3A	IOH PEI の初期化。
3B~3E	PCH PEI の初期化。
3F~4F	予約済みです。
60	DXE コアが開始されます。
61	NVRAM の初期化。
62	PCH ランタイムサービスのインストール。
63~67	CPU DXE の初期化が開始されます。
68	PCI ホストブリッジの初期化が開始されます。
69	IOH DXE の初期化。
6A	IOH SMM の初期化。
6B~6F	予約済みです。
70	PCH DXE の初期化。
71	PCH SMM の初期化。
72	PCH devices の初期化。
73~77	PCH DXE の初期化 (PCH モジュール固有)。
78	ACPI Core の初期化。
79	CSM の初期化が開始されます。
7A~7F	AMI で使用するために予約済みです。
80~8F	OEM を使用する (OEM DXE の初期化コード) のために予約済みです。
90	DXE から BDS (ブートデバイス選択) へ位相を移行します。
91	ドライバを接続するためにイベントを発行します。

コード	説明
92	PCI バスの初期化が開始されます。
93	PCI バスのホットプラグの初期化。
94	要求されたリソース数を検出するための PCI バスの列挙値。
95	PCI デバイスの要求されたリソースを確認します。
96	PCI デバイスのリソースを割り当てます。
97	コンソール出力デバイス (例 モニターが点灯) が接続されました。
98	コンソール入力デバイス (例 PS2/USB キーボード/マウスがアクティブ化される) が接続されました。
99	スーパー I/O の初期化。
9A	USB の初期化が開始されます。
9B	USB の初期化プロセス中にリセットを発行します。
9C	現在接続中のすべての USB デバイスを検出してインストールします。
9D	現在接続中のすべての USB デバイスをアクティブ化します。
9E-9F	予約済みです。
A0	IDE の初期化が開始されます。
A1	IDE の初期化プロセス中にリセットを発行します。
A2	現在接続中のすべての IDE デバイスを検出してインストールします。
A3	現在接続中のすべての IDE デバイスをアクティブ化します。
A4	SCSI の初期化が開始されます。
A5	SCSI の初期化プロセス中にリセットを発行します。
A6	現在接続中のすべての SCSI デバイスを検出してインストールします。
A7	現在接続中のすべての SCSI デバイスをアクティブ化します。
A8	必要に応じてパスワードを確認します。
A9	BIOS セットアップが開始されます。
AA	予約済みです。
AB	BIOS セットアップ中にユーザーコマンドを待ちます。
AC	予約済みです。
AD	OS ブート用のイベントを起動するレディーを発行します。
AE	レガシー OS を起動します。
AF	ブートサービスを終了します。
B0	ランタイム AP インストールが開始されます。
B1	ランタイム AP インストールが終了します。
B2	レガシーオプション ROM の初期化。
B3	必要に応じて、システムをリセットします。

コード	説明
B4	USB デバイスのホットプラグインです。
B5	PCI デバイスのホットプラグです。
B6	NVRAM のクリーンアップを行います。
B7	NVRAM を再設定します。
B8~BF	予約済みです。
C0~CF	予約済みです。

S3 レジューム

コード	説明
E0	S3 レジュームが開始されます (DXE IPL から呼び出される)。
E1	S3 レジューム用の起動スクリプトデータを入力します。
E2	S3 レジュームのため VGA を初期化します。
E3	OS は、S3 ウェイクベクターを呼び出します。

Recovery

コード	説明
F0	無効なファームウェアボリュームが検出された場合、リカバリーモードが実行されます。
F1	リカバリーモードは、ユーザーの判断によって実行されます。
F2	リカバリーが開始されます。
F3	リカバリー用のファームウェアイメージが検出されました。
F4	リカバリー用のファームウェアイメージがロードされました。
F5~F7	将来の AMI プログレスコード用に予約済みです。

エラー

コード	説明
50~55	メモリーの初期化エラーが発生しました。
56	無効な CPU タイプまたは速度です。
57	CPU が一致しません。
58	CPU のセルフテストが失敗したか、CPU のキャッシュエラーの可能性がります。
59	CPU マイクロコードが見つからないか、マイクロコードの更新に失敗しました。
5A	内部 CPU エラーです。
5B	PPI のリセットに失敗しました。
5C~5F	予約済みです。
D0	CPU 初期化エラーです。
D1	IOH 初期化エラーです。

コード	説明
D2	PCH 初期化エラーです。
D3	アーキテクチャプロトコルの一部が利用できません。
D4	PCI リソースのアロケーションエラーが発生しました。
D5	レガシーオプション ROM の初期化用のスペースがありません。
D6	コンソール出力デバイスが見つかりません。
D7	コンソール入力デバイスが見つかりません。
D8	無効なパスワードです。
D9-DA	ブートオプションをロードできません。
DB	フラッシュの更新に失敗しました。
DC	プロトコルのリセットに失敗しました。
DE~DF	予約済みです。
E8	S3 レジュームに失敗しました。
E9	S3 レジューム PPI が見つかりません。
EA	S3 レジュームの起動スクリプトが無効です。
EB	S3 OS ウェイクコールが失敗しました。
EC-EF	予約済みです。
F8	リカバリー PPI は無効です。
<F9>	リカバリーカプセルが見つかりません。
FA	無効なリカバリーカプセルです。
FB~FF	予約済みです。

規制声明

規制に関する注意

この文書は、当社の書面による許可なしにコピーできません、また内容を第三者への開示や不正な目的で使用することはできず、違反した場合は起訴されることになります。当社はここに記載されている情報は印刷時にすべての点で正確であるとし、しかしこのテキスト内の誤りまたは脱落に対してGIGABYTEは一切の責任を負いません。また本文書の情報は予告なく変更することがありますが、GIGABYTE社による変更の確約ではありません。

環境を守ることに對する当社の約束

高効率パフォーマンスだけでなく、すべてのGIGABYTEマザーボードはRoHS (電気電子機器に関する特定有害物質の制限)とWEEE (廃電気電子機器)環境指令、およびほとんどの主な世界的安全要件を満たしています。環境中に有害物質が解放されることを防ぎ、私たちの天然資源を最大限に活用するために、GIGABYTEではあなたの「耐用年数を経た」製品のほとんどの素材を責任を持ってリサイクルまたは再使用するための情報を次のように提供します。

RoHS(危険物質の制限)指令声明

GIGABYTE製品は有害物質(Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB)を追加する意図はなく、そのような物質を避けています。部分とコンポーネントRoHS要件を満たすように慎重に選択されています。さらに、GIGABYTEは国際的に禁止された有毒化学薬品を使用しない製品を開発するための努力を続けています。

WEEE(廃電気電子機器)指令声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE(廃電気電子機器)の指令から解釈されるように国の法律を満たしています。WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取り扱い、回収、リサイクル、廃棄を指定します。指令に基づき、中古機器はマークされ、分別回収され、適切に廃棄される必要があります。

WEEE記号声明



以下に示した記号が製品にあるいは梱包に記載されている場合、この製品を他の廃棄物と一緒に廃棄してはいけません。代わりに、デバイスを処理、回収、リサイクル、廃棄手続きを行うために廃棄物回収センターに持ち込む必要があります。廃棄時に廃機器を分別回収またはリサイクルすることにより、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するやり方でリサイクルされることが保証されます。リサイクルのために廃機器を持ち込むことのできる場所の詳細については、最寄りの地方自治体事務所、家庭ごみ廃棄サービス、また製品の購入店に環境に優しい安全なリサイクルの詳細をお尋ねください。

- 電気電子機器の耐用年数が過ぎたら、最寄りのまたは地域の回収管理事務所に「戻し」リサイクルしてください。
- 耐用年数を過ぎた製品のリサイクルや再利用についてさらに詳しいことをお知りになりたい場合、製品のユーザーマニュアルに記載の連絡先にお問い合わせください。できる限りお客様のお力になれるように努めさせていただきます。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用し、また他の環境に優しい習慣を身につけて、本製品購入したときの梱包の内装と外装 (運送用コンテナを含む) をリサイクルし、使用済みバッテリーを適切に廃棄またはリサイクルすることをお勧めします。お客様のご支援により、当社は電気電子機器を製造するために必要な天然資源の量を減らし、「耐用年数の過ぎた」製品の廃棄のための埋め立てごみ処理地の使用を最小限に抑え、潜在的な有害物質を環境に解放せず適切に廃棄することで、生活の質の向上に貢献いたします。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]

[illegible]

[illegible]

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.



連絡先

- **GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.**

アドレス: No.6, Bao Chiang Road, Hsin-Tien Dist.,
New Taipei City 231, Taiwan
TEL: +886-2-8912-4000
FAX: +886-2-8912-4005
技術および非技術。サポート (販売/マーケティング):
<http://ggts.gigabyte.com.tw>
WEBアドレス (英語): <http://www.gigabyte.com>
WEBアドレス (中国語): <http://www.gigabyte.tw>

- **G.B.T.INC. - U.S.A.**

TEL: +1-626-854-9338
FAX: +1-626-854-9326
技術サポート: <http://ggts.gigabyte.com.tw>
保証情報: <http://rma.gigabyte.us>
Webアドレス: <http://www.gigabyte.us>

- **G.B.T.INC (USA) - メキシコ**

Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)
FAX: +1-626-854-9326
Correo: soporte@gigabyte-usa.com
技術サポート: <http://rma.gigabyte.us>
Webアドレス: <http://latam.giga-byte.com>

- **Giga-Byte SINGAPORE PTE.LTD. - シンガポール**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.sg>

- **タイ**

WEBアドレス: <http://th.giga-byte.com>

- **ベトナム**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.vn>

- **NINGBO G.B.T.TECH. TRADING CO., LTD. - 中国**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cn>

- 上海**

TEL: +86-21-63400912
FAX: +86-21-63400682

- 北京**

TEL: +86-10-62102838
FAX: +86-10-62102848

- 武漢**

TEL: +86-27-87685981
FAX: +86-27-87579461

- 広州**

TEL: +86-20-87540700
FAX: +86-20-87544306

- 成都**

TEL: +86-28-85483135
FAX: +86-28-85256822

- 西安**

TEL: +86-29-85531943
FAX: +86-29-85510930

- 瀋陽**

TEL: +86-24-83992342
FAX: +86-24-83992102

- **GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - インド**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.in>

- **サウジアラビア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.sa>

- **Gigabyte Technology Pty. Ltd. - オーストラリア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.au>

- **G.B.T.TECHNOLOGY TRADING GMBH - ドイツ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.de>

- **G.B.T.TECH.CO., LTD. - U.K.**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.co.uk>

- **Giga-Byte Technology B.V. - オランダ**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.nl>

- **GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - フランス**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.fr>

- **スウェーデン**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.se>

- **イタリア**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.it>

- **スペイン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.es>

- **ギリシャ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.gr>

- **チェコ共和国**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.cz>

- **ハンガリー**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.hu>

- **トルコ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.tr>

- **ロシア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ru>

- **ポーランド**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.pl>

- **ウクライナ**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.ua>

- **ルーマニア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.com.ro>

- **セルビア**

WEBアドレス: <http://www.gigabyte.co.rs>

- **カザフスタン**

WEBアドレス: <http://www.giga-byte.kz>

GIGABYTE Webサイトにアクセスし、Webサイトの右上にある言語リストで言語を選択することができます。

- **GIGABYTEグローバルサービスシステム**



技術的または技術的でない (販売/マーケティング) 質問を送信するには:

<http://ggts.gigabyte.com.tw>

にアクセスし、言語を選択してシステムに入ってください。